



あつまる、つながる、ひろがるオフィス



FAMoffice

導入事例



FAMofficeをオンライン学習サービスで活用。

対面での交流が苦手な利用者も参加しやすくなり、利用者の意欲増進にも貢献



左から稲森様、亀井様

会社名

パーソルダイバーズ株式会社
(公式サイト)
<https://persol-diverse.co.jp/>

取材対象者

人材ソリューション統括本部 人材ソリューション本部
Neurodiversity事業部 AdvancedITグループ
稲森様、亀井様

企業概要

障がい者雇用に関わる有料職業紹介事業・コンサルティング事業、
就労移行支援事業等を行う。

企業規模

2,000名以上

課題

- 今まで使っていた仮想オフィスシステムは費用面に課題があった。
- 定期的な面談はビデオ通話システムで対応できるものの、利用者のストレス解消やモチベーション向上につながる雑談などには対応できなかった。

導入効果

- 今後、利用者数が増えても費用面を心配せずに使えるようになった。
- 利用者と運営側が気軽に交流できるようになり、利用者の学習意欲や就労に対するモチベーションの維持・向上につながった。
- 対面でのコミュニケーションを苦手とする利用者が、コミュニケーションを練習する場として役立っている。



学習の成果の発表イベントの場としてもFAMofficeを活用

発表を聞いている他の利用者が、つぶやき機能を使い「私もそう思いました」「いいですね」などのリアクションをとることもあります。

会話の機密性を担保する万全のセキュリティに安心。グループ内の基準を満たす万全なセキュリティ

—FAMofficeの導入を決めた理由を教えてください

稲森様: 当社はオンライン学習サービス「Neuro Dive Online」を運営しています。障がい者雇用は進んでいるものの、障がい者に任される仕事は単純作業が中心です。しかし、精神障害や発達障害を抱えていても高度なスキルを身に付けてキャリアアップを図りたいと考えている人もいます。そうした方に対し、AIやデータサイエンスなど先端ITの技術を学べる環境を用意するとともに、コミュニケーションの訓練などを行い、就職を支援しています。

亀井様: 利用者はオンラインで受講しているため、利用者同士が一体感を感じにくいという課題がありました。そこで、**一体感の醸成と、利用者と運営側のコミュニケーションのさらなる促進を目的に導入を決めました。**

—FAMofficeを選んだ理由をお聞かせください。

亀井様: セキュリティが大きな理由です。当社が扱う個人情報の中には、障がいに関する情報も含まれているため、グループ内では導入する機器に対して一定の基準を求めています。その基準に合致していたのが、FAMofficeでした。例えば、**第三者に会話の内容を聞かれないように会議室ロックができるので、安心して面談ができます。**費用も理由の一つです。以前、他社の仮想オフィスを利用していましたが、コストが非常にかかっていました。FAMofficeは**利用者数が増えてもコスト負担が大きくありません。**加えて、**レイアウトの自由度が高い点も魅力**でした。そのため、2024年5月から利用を開始しました。



相手の表情が見えるため多くの情報を得られる

—FAMofficeの導入にあたり、利用者にはどのように周知しましたか？

稲森様: 4月に体験利用を開始する際に、利用者とビデオ通話システムをつなぎ、基本的な操作方法を説明しました。今振り返ると、説明の必要がなかったぐらい、操作は簡単でした。

亀井様: 運営側では、フロアのレイアウトを作成しました。就労を目指す利用者が働くイメージを持てるように、オフィスで使われるような長机を用意し、利用者がそこで勉強ができるようにしました。利用状況を一目で把握できるように、必要なスペースを用意しつつも、広くなり過ぎないように心がけました。

—現在はどのように使っていますか？

稲森様: 基本的に、利用者も講師も運営側もいつでも利用できるようにしています。利用者の中には毎日来て勉強している人もいますし、面談やイベントの時だけ来る人もいます。また、イベント開催にも活用しています。利用者は画像判断をするAIやデータ分析などの作品をつくり、学習の成果をイベントで発表します。発表を聞いている他の利用者が、つぶやき機能を使い「私もそう思いました」「いいですね」などのリアクションをとるのが流行っています。

—FAMofficeの使い勝手はいかがですか？

稲森様: 話し掛けると、相手の顔が表示される点がとても良いと思っています。利用者の中には、言葉で表現するのが苦手な方もおり、言葉を選ぶために長時間考えてしまう場合もあります。表情が見えなければ、相手の状況がわかりません。しかし、表情が見えることで考え中だとわかりますし、話している時の表情から迷いを読み取れることもあり、会話で役立っています。

対面での交流が苦手な利用者もFAMofficeなら交流しやすい

—FAMoffice導入の効果をお聞かせください。

稲森様: 学習の様子が可視化できています。高度なスキルを身に付けるため、利用者は約100時間分の講習を自分で進めていかなければなりません。学習意欲が下がる時もあると思いますが、FAMofficeに来れば勉強している仲間の姿が見えるので、その姿が利用者の背中を押してくれていると思います。ちょっとした雑談を目当てにFAMofficeに来る利用者もいます。外のコミュニティとのつながりが少ない人もいるので、雑談できる場があることがストレス解消につながっているようです。

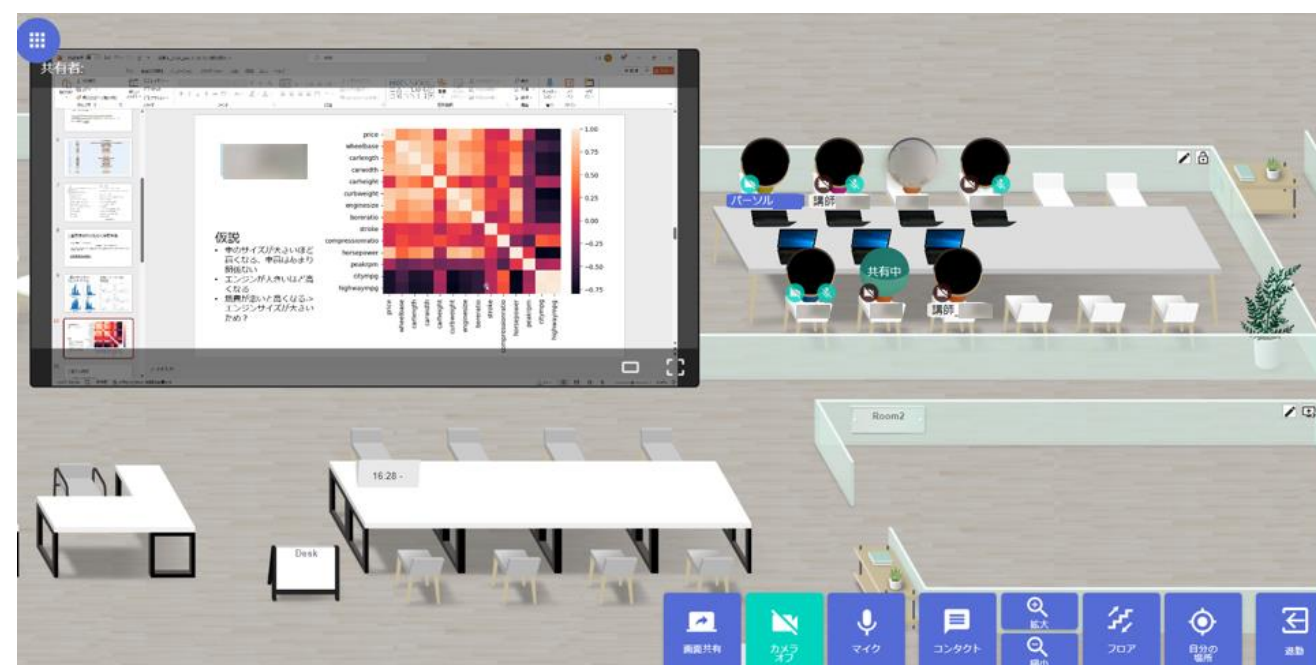
亀井様: FAMofficeでの会話やアドバイスをきっかけに、利用者のモチベーションが上がるケースもあります。一人で学習をしていると孤独感を覚えたり集中できなかったりするので、FAMofficeに来て気持ちを切り替える方もいます。

—FAMofficeを利用するメリットについて、お考えをお聞かせください。

稲森様: 障がい者雇用の求人も就労支援サービスも大都市に集中していますが、困っている人は全国にいます。だからこそ、こうしたサービスを全国どこでも受けられることは、社会的意義があるでしょう。利用者の中には目的のない雑談が苦手な人もいますので、月に1回話す練習をする場を設けています。仮想オフィスは対面と異なり、サインアウトさえすればその場から離れることもできるので、参加のハードルが低いと感じてもらえているようです。

亀井様: 対面の場合、口頭でのコミュニケーションが基本です。一方、FAMofficeはテキストや画面の共有で補足できるので、利用者も参加しやすいようです。

稲森様: まだ多くの企業は対面での就労が中心なので、最終的には対面でコミュニケーションがとれるようになる必要があります。しかし、最初から対面でコミュニケーションをとるのは難しい利用者もいるので、慣れてくるまでFAMofficeでコミュニケーションがとれるのは良いと思います。また、当社としても対面でサービスを提供するには、実店舗が必要となるので、すぐには全国に拡大できません。その両面を考えてもFAMofficeはとても価値があります。今後もFAMofficeを活用し、学習サービスを利用する方の支援をしていきたいと考えています。





**リモートワーク中のスタッフのストレスが軽減。
離職防止に加え、採用活動での魅力向上にもつながる。**



橋本様

会社名
株式会社ZERO ONE(CROSSROADグループ)
(公式サイト)
<http://zeroone-bpo.jp//>

取材対象者
COO 橋本真澄様

企業概要
スタートアップから上場企業まで幅広い企業のバックオフィスBPO業務をサポート。

企業規模
100名以下

課題

- ・ リモートワーク中は他のスタッフに話し掛けにくく、コミュニケーションを促進する仕組みが必要だった。
- ・ 他社のシステムを導入してみたが、スタッフ数の増加とともに、システム利用料の負担が大きくなった。

導入効果

- ・ 他のスタッフに質問がしやすくなり業務が効率的に進むだけでなく、気軽に雑談ができ交流しやすくなった。
- ・ 利用料負担を抑えられ、安心して利用できるようになった。
- ・ 採用面接でFAMofficeの利用を伝えると、応募者に職場環境の良さに好印象を持ってもらうようになった。



コミュニケーションをとりやすい環境がチーム間の連携強化に
拠点が離れているメンバー同士、FAMofficeに集まることで、情報共有が
スムーズになり、業務の効率化にも寄与しています。
業務内容によって、会議スペースをわけるレイアウトにすることでどの業務
を行っているかが一目で把握することができます。

固定費の増加を抑制できる点に魅力を感じた

—FAMofficeを導入したきっかけを教えてください。

当社は税理士法人と社労士法人のグループ会社であり、約10年前から税理士法人で顧問先からの依頼に応じてBPO業務を受託してきました。企業の人材不足が深刻化するなか、経理・労務業務の代行ニーズが高まることに対応し、2022年に事業部として業務を開始し、2023年1月に法人として独立しました。スタートアップから東証プライム上場企業まで、幅広いお客様のバックオフィスBPO業務をサポートしています。税理士法人では、コロナ禍前からリモートワーカーが複数人いたため、リモートワーカーを雇用する環境の素地が既にありました。ZERO ONEの従業員を雇用するにあたって、地方在住や子育て中などで都心部のオフィスへの出社が難しい人材の活用を促進するため、初期段階からリモートワーカーの雇用を考慮に入れていました。リモートワークでは、コミュニケーション不足が生産性の低下を招く最大の課題であるため、仮想オフィスの導入を積極的に検討しました。

—仮想オフィスにはどのような機能を求めていましたか？

仮想オフィスの画面上に常にスタッフの顔が表示されるタイプの場合、スタッフは監視されていると感じる可能性があります。そのため、必要に応じてビデオ通話ができる仮想オフィスを求めていました。検討した当初は外国製の製品しかなく、最初は他社の仮想オフィスを導入しました。ただ、いくつか問題が生じたのです。

まず費用です。ユーザー数で課金されるため、スタッフが増えるにつれ、固定費負担が増しました。外資企業の製品だったので、不明点についてメールで問い合わせても、わかりにくい文章で返事が来るなど、サポート体制にも不満がありました。すでに当社がパソコンに搭載していた別のシステムとの間で不具合が生じる場面もあり、システム変更を考え始めました。



—FAMofficeを選んだ理由を教えてください。

1つ目は、富士ソフトが開発した国産のシステムなので、安心感がありました。2つ目は、費用面です。ユーザー数が上限に達するまでは、金額が固定なので、固定費の増加を抑えられる点に魅力を感じました。これからスタッフが増えても安心して利用できます。

雑談しやすいため、スタッフのストレス軽減にも効果

—導入までの流れを教えてください。

導入を決めたのは、2023年です。年末年始休暇中に私がFAMoffice内のレイアウトを整え、2024年1月4日から使い始めました。マニュアルがわかりやすく、使い方について困ることはありませんでした。使い始めた当初、不具合があり、メールで問い合わせたところ、すぐに返事が来たのも助かりました。現状では、サポートを受けなければならない場面はなく、順調に運用できています。

—スタッフの皆さんの反応はいかがですか？

仮想オフィスによって、一目でスタッフの出勤状況がわかるので、非常にコミュニケーションがとりやすいと感じているようです。リモートワーク中は、不明点や疑問点があっても他の人の状況がわからないために質問ができなかったり、わざわざオンライン会議ツールで予定を合わせてから話をしたりするケースが多くあります。FAMofficeは待ち時間を作ることなくすぐに話し掛けられるため、とても便利です。困ったことがあればその場で解決することができます。

また、出社に比べ、リモートワークは雑談がしにくく、スタッフのストレスが溜まりやすい環境になりがちです。FAMofficeは雑談がしやすく、スタッフのストレス軽減にもつながっていると感じています。さらにFAMofficeはアバターの髪や服の色を自由に選べるため、自分の好みに合わせて楽しく選んでいる人もいます。



—FAMoffice導入による効果を教えてください。

コミュニケーションの活性化とストレスの軽減が顕著になりました。これにより、スタッフの満足度が向上し、結果として離職率の低下に大きく寄与しています。とくに、リモートワークが多い現代において、FAMofficeはチーム間の繋がりを強化し、一体感を保つための重要なツールとなっています。ご家庭の事情で退職される方を除き、導入後の退職者は無く、定着率の向上が明確に見られます。また、FAMofficeによる情報共有のスムーズ化は、業務の効率化にも寄与し、生産性の向上を実現しています。

採用面でもメリットがあります。採用面接の際に、FAMofficeを活用しコミュニケーションがとれるようにしていると伝えると、働きやすい環境を整備していると喜んでもらえます。FAMofficeがあったからこそ、すぐに職場に馴染んでいるようです。

FAMofficeのおかげでチーム制が円滑に機能

—リモートワークにおける仮想オフィスの重要性について、お考えを教えてください。

リモートワークでは、コミュニケーションをとりやすい環境づくりが重要です。そのためにFAMofficeは役立ちますし、費用をかける価値はあります。

当社で働いているスタッフの居住地は北海道から大分県までと幅広く、配偶者の転勤で地方に引っ越した結果、それまでのキャリアを活かせる仕事が見つからず困っていた人もいます。また、子育て中で出社が難しい人もいます。女性はとくに一旦離職すると、再就職が厳しいのが現実です。

当社はリモートワークを導入することで、地方在住でも子育て中でもキャリアを活かした仕事ができます。加えてチーム制により、子どもの急な病気で休みをとっても他のスタッフがフォローできるようにしました。チーム制が円滑に機能しているのは、FAMofficeでコミュニケーションがとれているおかげです。リモートワークは優秀な人材の確保につながり、本人にとっても会社にとってもメリットがあります。FAMofficeは、そのリモートワークを支えてくれていると感じています。



いい日、いい出逢いをプロデュース。

株式会社 システムブレイン

在宅でも社員がお互いの勤務状況を把握できるように。 経営者・社員双方がメリットを享受



代表取締役 岡田常彦様(右)
企画室 岡田幸洋様(左)

会社名
株式会社システムブレイン
(公式サイト)
<https://www.sbrain.co.jp/>

取材対象者
代表取締役 岡田常彦様
企画室 岡田幸洋様

企業概要
民間企業や市民・官公庁向けに講演、研修企画等のコンサルティングを行う。

企業規模
100名以下

課題

- 在宅勤務制度の活用で、他の社員の勤務状況がわからず、連絡が取りにくくなった。
- 他社製品を利用したものの、業務委託をしているメンバーの増加に合わせて、固定費負担が増した。

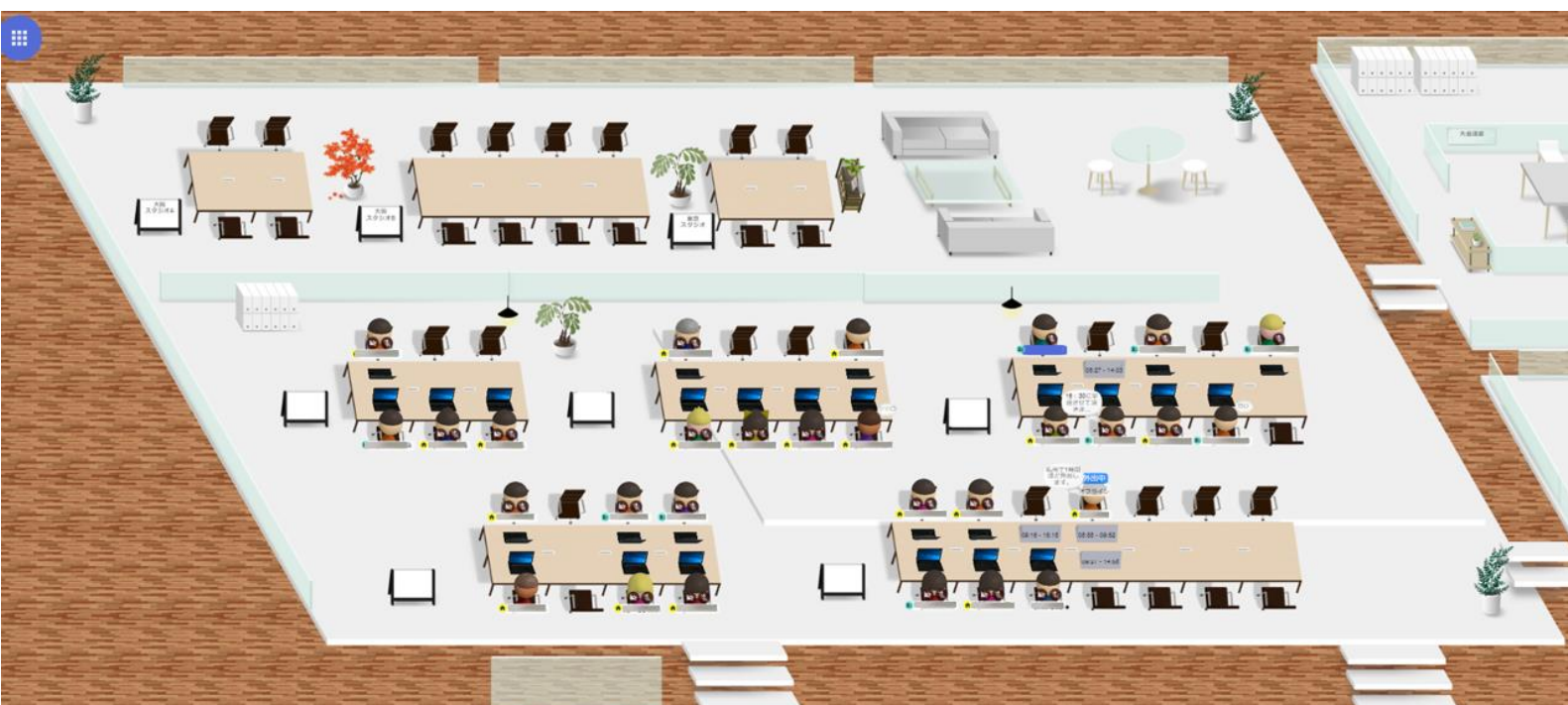
導入効果

- 他の社員の勤務状況を一覧で確認できるため、電話の取り次ぎなどの連絡がストレスなく行えるようになった。
- ユーザー数が上限に達するまでは利用料が固定なので、固定費増加を抑えられた。



勤務状況が俯瞰できるので、お互いの‘今’を共有することができる

社員や業務委託のメンバーで利用し、お互いの状況をすぐに確認できる環境を整えることで、業務の効率化を図ることができました。トライアルの際のレイアウトをそのまま利用することができたので本導入の際の手間がなくスムーズに利用開始できました。



FAMofficeはスペックとコストのバランスが取れていた

—FAMofficeを導入した当時の状況を教えてください。

岡田常彦代表取締役(以下、岡田代表取締役)：以前から当社では在宅勤務制度を導入していましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、大半の社員が在宅勤務制度を利用することになりました。2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、出社ができるようになったものの、子育てや介護などで在宅勤務を希望する社員が多くいました。そこで在宅勤務の方が仕事がしやすいのであれば、在宅勤務でも生産性の高い活動ができるよう、社内外のコミュニケーションのあり方について考えるようになったのです。

岡田幸洋様(以下、岡田様)：当社は講演会の講師を紹介する仕事をしているため、お客様からのお問い合わせの電話が多くあります。加えて、業務委託をしているメンバーも多くいます。例えば社員の出社状況などがわからなければ、電話の取り次ぎが円滑にできません。出社と在宅勤務を両立するには、社員や業務委託のメンバーの状況をすぐに確認できる仕組みが必要でした。

—FAMofficeの導入の決め手を教えてください。

岡田代表取締役： **スペックとコストのバランスがとれている点**です。いくら多機能な製品を導入しても、実際には使いこなせない場合もあります。当社の導入目的は、状況確認です。在宅勤務の社員と出社している社員が入り混じっている状態では、他の社員の状況がすぐにわかりません。その状態で働くと、コミュニケーション面で社員は大きなストレスを感じます。**FAMofficeであれば、他の社員の状況を手間なく共有できます**。この価格で当社の目的に十分対応可能だと判断したことが、導入の決め手につながりました。コストに関しては、利用人数の面から考えても、当社の課題に合致していました。当社は、FAMoffice導入前に他社の製品を利用していました。しかし業務委託のメンバーが増えたことにより、固定費が増加するという課題を抱えていました。FAMofficeであれば、利用人数の変動があってもユーザーが100人までであれば価格は変わりません。当社の社員数と業務委託のメンバー数を考えると、固定費が増えないのはありがたいです。

トライアル期間に設定した環境を継続して使える点が便利

—導入から現在までの流れを教えてください。

岡田様：トライアルを経た後、2024年2月に導入しました。FAMofficeを知ってから実際に導入するまでたった1ヶ月しかかからず、すぐに導入ができました。トライアル期間には、サインインやサインアウトをし忘れずに使い続けるために、ブラウザ版とアプリ版のどちらが適しているかを社員と共に検討しました。最終的に、アプリをダウンロードすれば、**自動サインインや離席中のステータス表示ができるので、社員の負担がなく運用がしやすい**とわかり、現在は9割の社員がアプリ版を使用しています。システムを導入する際は、一般的にプロフィール登録などに手間がかかりますが、一括登録ができたおかげでスムーズに始められました。**トライアル期間に構築したレイアウトなどの設定を、本格導入後もそのまま活かせる点**は、ありがたいかったです。

—利用にあたって、社員の皆さんの反応はいかがでしたか？

岡田様：新しいサービスを導入すると、不満が寄せられるケースもありますが、今回は不満はほとんどありませんでした。富士ソフトからもらったマニュアルの中からサインイン方法など最初に必要な情報だけを抜粋し、簡単なマニュアルを作成して社員に配布しました。説明はそれだけでしたが、スムーズでした。

岡田代表取締役：FAMofficeは業務委託のメンバーにも利用してもらっていますが、とても使いやすいようです。他の社員の状況が一覧で見えるようになったため、連絡しやすくなり、仕事をするうえでのストレスは随分減っていると思います。導入当初、FAMofficeには、**出社や在宅、会議中や離席中など社員の状況を確認できることを求めています**。使い始めて数ヶ月経ちますが、その役目を十分に果たしていると感じています。



社員に仕事の効率化を促す勤務時間の可視化

—経営者のお立場から見て、FAMoffice導入の利点はどこにあると感じていますか？

岡田代表取締役：組織の課題解決につながっています。その1つが、勤怠管理です。FAMofficeはサインインやサインアウトの時間を集計できるので、**勤務時間を可視化できます**。長時間労働の防止にもつながるでしょう。FAMofficeを導入したことで、仮に在宅で仕事をしていても、「効率を考えて仕事に取り組むように」というメッセージを社員に伝えられていると思います。FAMofficeは**社員にとって利便性があるだけでなく、経営者の課題解決にもつながる製品だ**と感じています。

—これからFAMofficeの導入を考えている方へアドバイスををお願いします。

岡田様：サービスを導入する際は、目的を最優先に考えて選択することをおすすめします。いくら多機能であっても、新しいサービスへの移行には、かなりコストがかかるためです。FAMofficeはかゆいところに手が届くサービスで、導入によって私たちの目的は達成できています。FAMofficeを選んでよかったと思います。岡田代表取締役 組織が成果を出すには、問題を解消していかなければなりません。仮にサービスの導入で問題を解消するのであれば、経営課題を放置することで生じる損害とサービスの導入コストを比較して、コストに見合うものを選ぶ必要があります。そうした観点から考えても、**FAMofficeの導入は大きな価値があった**と思います。人手不足により、今後、採用がさらに厳しくなっていくことを考えると、どの企業においても在宅勤務制度を積極的に進めた方がよいでしょう。在宅勤務制度にはさまざまなハードルがありますが、FAMofficeが解決策になると思います。



大阪大学 数理・データ科学教育研究センター

対面での教育と同じような一体感を実現！ リカレント教育でのバーチャル空間の活用期待大



鈴木様

団体名

大阪大学 数理・データ科学教育研究センター
(公式サイト)

<https://www-mmds.sigmath.es.osaka-u.ac.jp/>

取材対象者

大阪大学 数理・データ科学教育研究センター
副センター長 鈴木貴様

団体概要

金融・保険数理や数理モデル、データ科学を体系的に習得できる、学際的な文理融合型教育プログラムを開発・実施を行う。

利用規模

100名以下

課題

- 毎回ビデオ通話システムで受講生とのミーティングを設定するのが手間だった。
- ビデオ通話システムは資料への書き込みがしにくく、受講生への説明がしづらかった。
- 全国の社会人を対象としているため、対面での指導やセミナー開催は難しかった。

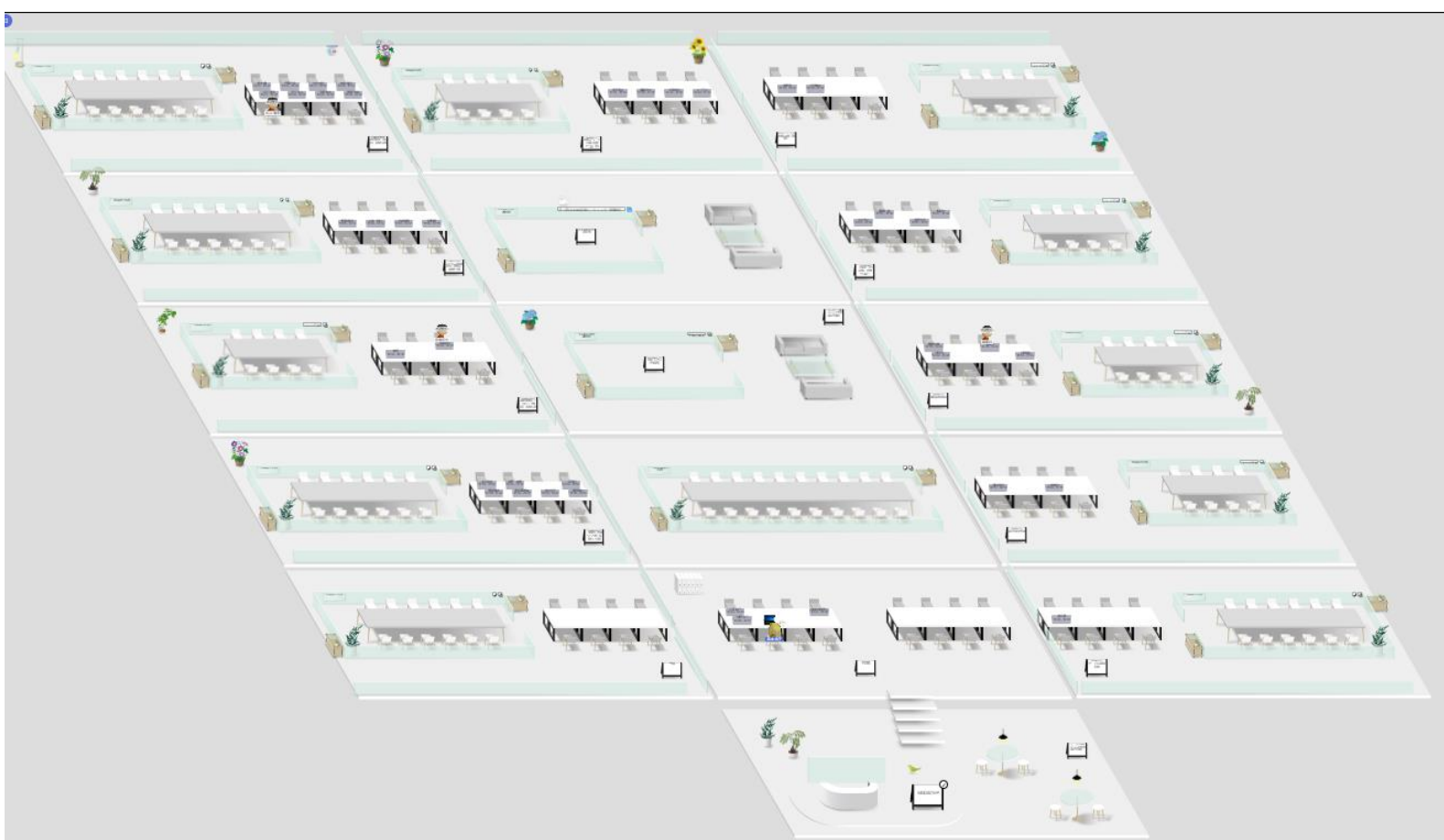
導入効果

- FAMofficeにサインインするだけで、すぐに受講生と集まることができるようになった。
- 資料の共有に加え書き込みがしやすく、議論が活性化した。
- オンライン上でも対面と変わらない指導ができ、学びたい人が学べる環境をつくることができた。



同じ空間を共有し、一緒に勉強をしている仲間だと感じられる環境を構築

1階には研究室毎に教室、2階には全体ミーティング用の大広間を用意し、フロア設計を工夫しました。また、各教室前には研究室の名前と時刻を掲示し、案内をしています。



ミーティングのしやすさと機密性の担保が導入の決め手に

——FAMofficeを導入したきっかけを教えてください。

以前、大阪大学 数理・データ科学教育研究センターが開催しているAI・データ活用研究会で、富士ソフト株式会社に講演してもらう機会があり、その際にFAMofficeの紹介を受けました。

導入を決めたのは、文部科学省の「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」の一環として、当大学での「MMDS 高度AI人材育成プログラム」(データサイエンス分野)の実施が決定した時です。社会人を対象としているため、オンラインでの開催を検討しました。しかし、毎回ビデオ通話システムでミーティングを設定するのは手間がかかると悩んでいたところ、FAMofficeであれば課題を解決できると考え、導入を決定しました。

——FAMoffice導入の決め手を教えてください。

3点あります。1つ目は、**受講生との集まりやすさ**です。FAMofficeにサインインし、会議室に入ればすぐにビデオ通話が始められます。またビデオ通話システムと連携する場合は、会議室にビデオ通話システムへの参加URLを入力すれば、ビデオ通話システムへの招待も容易にできます。集まるために、わざわざビデオ通話システムのURLを一人ひとりにメールで送る必要がないところが優れていると感じました。2つ目は、**十分な機密性が担保されているので、安心して利用できる点**です。3つ目は、**全体を俯瞰して見ることができる点**です。FAMofficeにサインインすれば、仮想オフィス全体を簡単に俯瞰できるので、すぐに会議室や控室に誰がいるのかを把握できます。**受講生の出席状況がわかりやすい**と感じました。また、FAMofficeはアバターを使用するので、物珍しさもありました。



優れた操作性によりFAMoffice未経験の受講生でも問題なく利用できた

——導入から現在までの流れを教えてください。

2023年6月に受講生を募集すると同時に、仮想オフィスの導入を開始。8月に動作確認も含め、FAMofficeで入学式を開催しました。同プログラムでは、30人の受講生が6つの研究室に分かれて、それぞれの課題発見・解決を図ります。そこで、入学式では各研究室でのガイダンスや講師・受講生の紹介を行いました。9月からプログラムを開始し、各研究室が週に1回FAMoffice上で受講生への指導やセミナーを行いました。2024年2月にプログラムが終了し、3月に成果発表会を開催したところでした。

——導入にあたっては、どのような準備をしましたか？

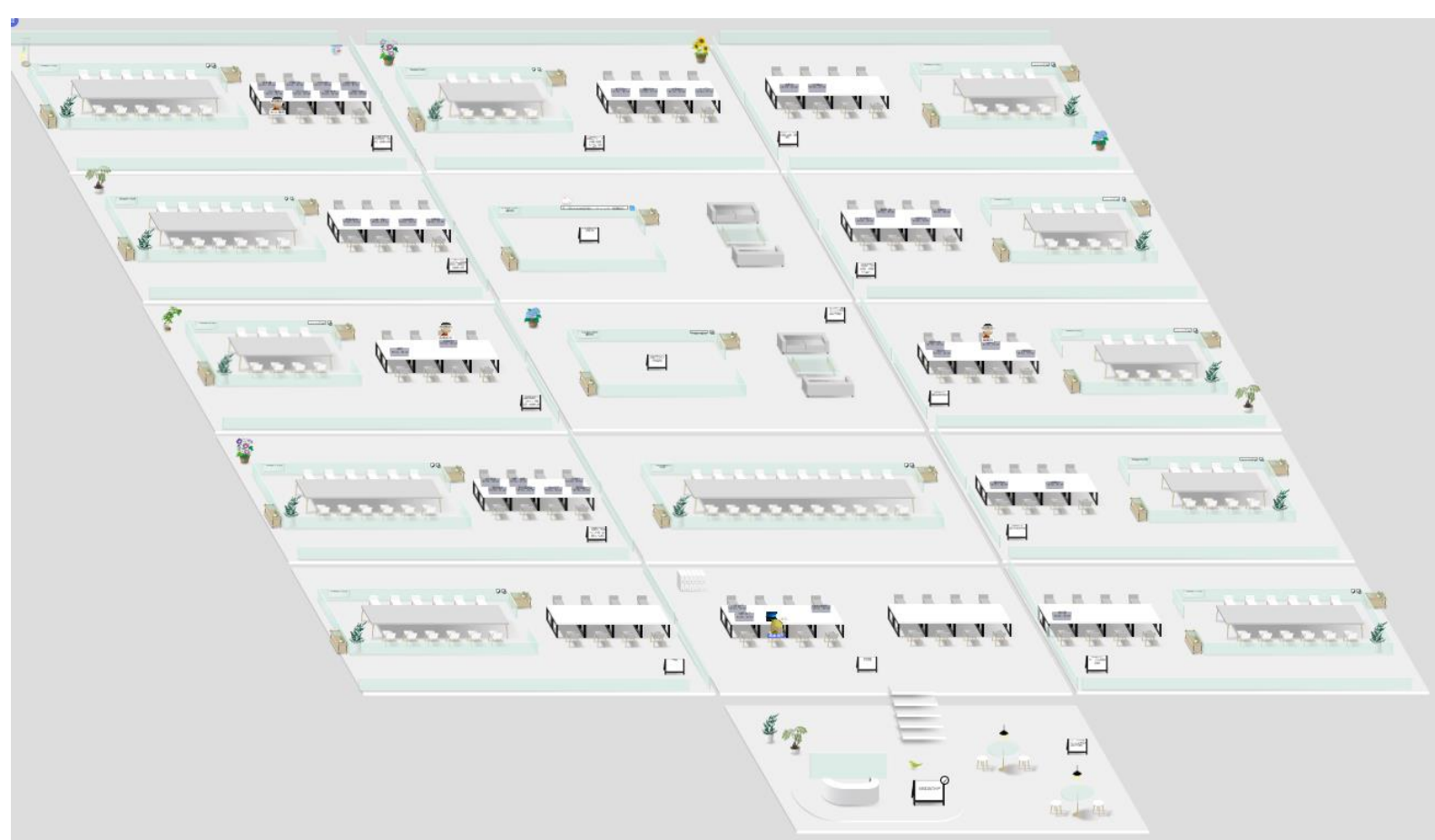
受講生にはマニュアルを配布しました。FAMofficeの利用は初めての人が多かったですが、操作が簡単のため、問題ありませんでした。FAMofficeの中で迷子になり、教室にたどり着けなくなるような事態も発生しませんでした。

フロアの構築を担当したのは、事務職員です。研究室の中には、さらに複数のグループに分けているところもあったので、教室は10個ほど用意しました。教室の前には、研究室の名前と時間を記載したポップアップ看板と控室としてテーブルを設置しました。部屋数が多かったので、立体的にした方がすっきりわかりやすくなると思い、1階には各研究室で使う教室、2階には月1回開催する全体ミーティング用の大広間を用意しました。

資料に書き込みしやすいため、受講生の疑問にもすぐに対応可能

——実際に利用した感想を教えてください。

資料共有システムが便利でした。**配布だけではなく、書き込みもできる点が良かったです**。受講生から数式について質問を受ける機会がたびたびあったので、その場で資料やホワイトボードに書き込んで説明をすることができました。講師だけではなく受講生も書き込めるので、双方向でコミュニケーションがとれ、**ディスカッションがしやすく、こうしたことが受講生の理解促進につながった**と感じています。加えて、**アクセスのしやすさ**に長けていました。「今日の〇時に集まりますか」と連絡をすると、すぐにFAMofficeに集まって話ができます。まるで**大学の研究室に学生が集まるような気軽さ**でした。ビデオ通話システムと違い、時間制限がない点も助かりました。セミナーが終わり私が退室した後も、受講生が残って話し合いを続けたこともありました。**講師にとっても使いやすかった**と思います。事務職員が設定を行い、利用を依頼したところ、すぐに当たり前のように使い始め、もはや**FAMofficeは空気のような存在**になっていました。



——費用面や通信容量の負荷の面はいかがでしたか？

「FAMofficeを使っている」と話すと、よく費用を聞かれます。金額を伝えると、「安いですね」と驚く人が多いです。**費用対効果は満足**しています。通信負荷についても問題ありませんでした。

——普段、先生は対面で学生に教えていらっしゃると思いますが、仮想空間上での教育と対面での教育に違いはありましたか？

対面の授業で感じる温度感に近い感覚が、FAMofficeにもありました。アバター相手に話をしているにもかかわらず、不思議なことに相手は何を考えているのかがなんとなくわかるような気がしました。同じ空間を共有し、一緒に勉強をしている仲間だと感じられます。リラックスして話せましたし、一体感もありました。

研究室が始まる前は、受講生は控室のテーブルで待ち、私が会議室に入ると受講生も入ってきて、セミナーが始まる点も大学のような感じでした。

——FAMofficeに期待する点をお聞かせください。

研究室の開催日は事前に決めていましたが、受講生の中には忘れていた人もいました。そうした受講生はメールで連絡すると、すぐにアクセスして参加してくれましたが、参加予定を忘れた人に自動で通知をする機能があると、ありがたいですね。今回のプログラムには、東京や四国から参加してくれた人もいました。

FAMofficeがなければ参加できなかった人もいたと思うので、**社会人向けの教育においては、FAMofficeのニーズは高い**でしょう。

今後は、当センターが設立した一般社団法人数理人材育成協会の**リスクリング講座でも利用していく**予定です。



FAMofficeを障がい者の就労支援ツールとして導入！ 利用者とのコミュニケーションロスを減らす



石田様

会社名

テクノベース株式会社
(公式サイト)<https://techno-base.co.jp/>

企業概要

横浜市南区に事業所を持ち、身体障がいや精神的事由により外出が困難な方のための就労支援を行う。

取材対象者

就労継続支援B型事業所テクノベース
管理者兼サービス管理責任者 石田様

企業規模

100名以下

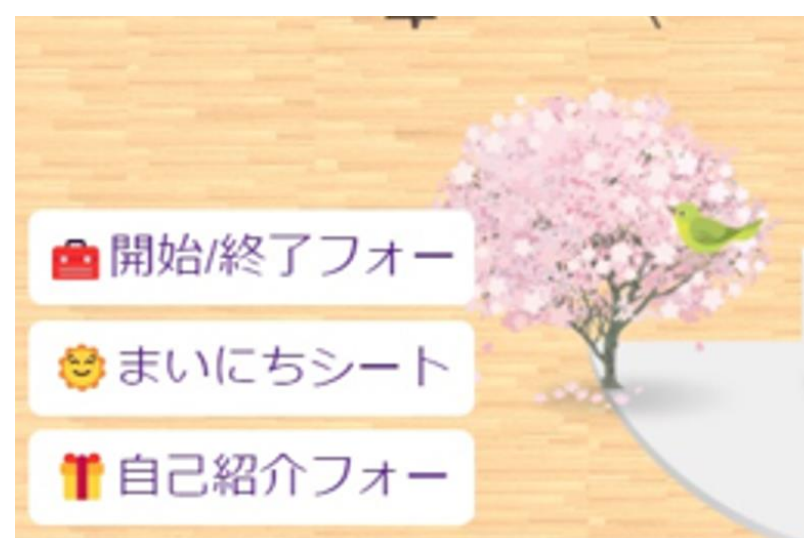
導入効果

離れていても一緒に働いている一体感を感じながら、仕事ができる環境を構築

- ・ コミュニケーションロスを減らし、お互いのコミュニケーションハードルを下げる事ができた
- ・ 仕事の進捗状況や健康状態などを効率的に確認することができるようになった
- ・ コミュニケーションの活性化・効率化に繋がり、利用者の時間的価値が向上した



会話はもちろん、チャットも併用し、利用者に合わせてコミュニケーションを行っています。



ツールランチャー

管理者があらかじめ設定したURLを表示させることができます。よく利用するツールは画面に掲示し、簡単に誘導を行うように工夫しています。



看板

看板にURLを設定するとリンク先にアクセスすることができます。イベント情報などは看板を設置し、周知しています。

就労継続支援B型事業所テクノベース様

身体障がいや精神的事由により外出が困難な方へ、最も適したコミュニケーション方法はなにか

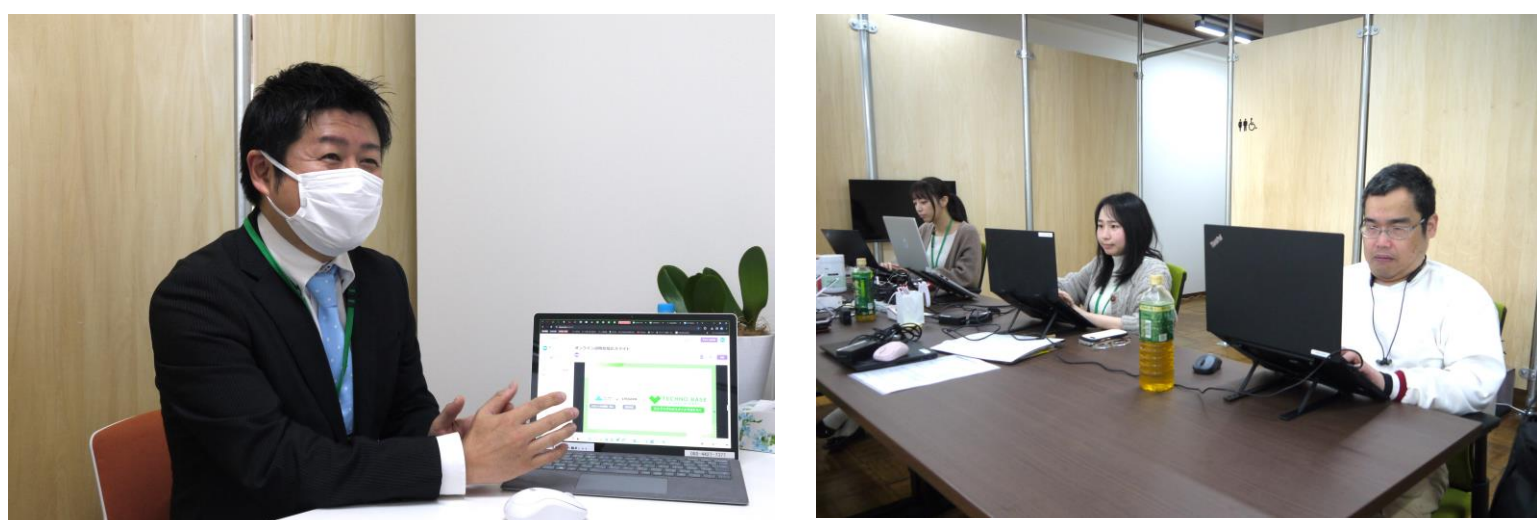
—FAMofficeを導入した背景を教えてください。

石田様:2023年12月に就労継続支援B型事業所「テクノベース」を開設しました。私たちテクノベースの事業目的は、身体障がいや精神的事由により外出が困難な方へ、就労の機会を提供することにあります。そのため、利用者(以下、在宅利用の方含む)の方々は必然的に在宅勤務が多くなるので、オンラインでのコミュニケーション方法について、利用者の方にとって一番いい方法を模索していました。そんな時に仮想オフィスの存在を知り、利用者のコミュニケーションハードルを下げるツールにピッタリだと感じました。

私たちにとってFAMofficeが最適解 | 会話の機密性、シンプルな操作性、コストパフォーマンスが決め手

—FAMoffice導入の決め手を教えてください。

石田様:具体的なポイントとしては3つあります。1つ目が、**会話の機密性が保たれている点**です。FAMofficeでは指定した相手としかビデオ通話ができないので、人前では話づらいような相談もしやすくなります。私たちの事業の性質上、利用者の個人的な悩みや相談を受けることが多いので、オープン型の会話方法はあまり適さないのです。2つ目は、**シンプルな操作性**です。重度肢体不自由の方の場合、思い通りに動かせる体の部位は限られており、専用の入力インターフェースやスクリーンキーボードを使用しているため、複雑なシステムは敬遠されてしまいます。FAMofficeは**操作性も良く、動作環境負荷も軽い点**が魅力的でした。最後の1つは**コストパフォーマンス**です。私たちの事業は公費で運営される事業なので、ツール1つとっても、費用対効果は十分に検討する必要があります。また、利用者の方は限られた時間で就労の機会を得ているので、その貴重な時間内でどれだけ具体的な就労支援効果を提供できるかが、テクノベースの役割だと考えています。そういった観点で考えたときに、FAMofficeは、**コミュニケーションツールとしても、通所者の支援ツールとしても、最適解**だと感じました。



利用者とのコミュニケーションにより、状況把握や健康状態を確認

—FAMofficeをどのように活用していますか。

石田様:基本的な運用としては、テクノベースの従業員と利用者はFAMofficeに出社し、朝・夕の定例ミーティングを行っています。就労支援事業所の場合、利用者の体調状況にも注意が必要となりますが、FAMoffice内で定例ミーティングを行うことで、**効率的な利用者の状況確認が可能**です。あとは、利用者の仕事の進捗確認やつまづきの解消、個人的な相談ごとまで、適宜、FAMofficeを通してコミュニケーションをとっています。利用者から声をかけてもらうこともありますし、私たちの方で様子を伺って声をかけることもあります。FAMofficeにより、事業所に通うことが困難な方とも、**気軽なコミュニケーションが可能**となっています。

導入にも抵抗は一切なく、誰でもすぐに使える

—テクノベース従業員の皆様や利用される方は、FAMofficeに抵抗はありましたか。

石田様:利用者のほとんどの方は、すぐにFAMofficeに慣れている印象です。テクノベースへの利用を検討されている方に向けて、入所の説明を行っており、その際にFAMofficeについても説明をしています。また、希望者は1週間程度の体験利用も可能で、その期間にFAMofficeも体験できるので、特に抵抗もなく受け入れてもらえています。特に、若い世代の方だとゲームやパソコンが好きな方も多いので、すぐに使いこなしています。また、社内導入時にも、従業員に全く抵抗はありませんでした。こういうシステムなのだと、**皆すぐに受け入れていました**。従業員の間では、オフィスのレイアウトや季節に合わせた模様替えなども積極的に行い、楽しんで使っています。また、FAMofficeの**アバターが親しみやすいデザイン**なので、個人的にはそこも気に入っています。

コミュニケーションのハードルを下げる、大きな効果を発揮

—FAMofficeを使ってどのような効果がありましたか。

石田様:もともとFAMoffice導入に期待していた利用者とのコミュニケーションツールとしては大きく効果を発揮しています。外出困難な方にとって、家で仕事ができることはとても良いことですが、仕事の相談のしづらさ、悩んでいるときの孤独感など、心理的不安も大きいはずですが、FAMofficeが導入されていることで、**すべてのコミュニケーションに対する心理的ハードルを下げられている**と思います。

限られた時間の中でコミュニケーションを取り、チームの一体感を大事にする

—FAMofficeを使って効果的だと感じたエピソードを教えてください。

石田様:現在、テクノベースを県外から利用されている方で、重度のリウマチの方がいらっしゃるのですが、この方は、自力歩行が難しく、自由に動かせる体の部位が少ないため、現状では1週間で1時間半の労働時間が最大です。私たちは、この**限られたわずかな就労時間を、ご本人にとってなるべく有意義な時間にしたい**という想いです。FAMofficeは**コミュニケーションの活性化・効率化において、利用者に与える影響が大きく、時間的価値の向上につながっています**。また、短時間で利用者の方にチーム感や一体感を感じてもらうことにも、FAMofficeが一役買っていると感じています。

私たちのインフラの1つとして、FAMofficeが当たり前

—FAMofficeに関してご意見をいただけますでしょうか。

石田様:実は、社内、利用者いずれからも、FAMofficeに対して意見をいただくことは、ほとんどありません。しかし、これは私は素晴らしいことだと考えていて、**FAMofficeがテクノベースのインフラとして成り立っている証明**だと思います。水道から水が出てくる、スイッチを押せば電気が点く、そんな無意識的に日々感じている安心感があります。それと同じで、私たちにとってFAMofficeは**当たり前の存在として馴染んでいる**。私たちテクノベースは、今後もFAMofficeを活かして、事業所を利用する方々への支援はもちろんのこと、適切な環境と配慮さえあれば働ける人たちがいること、「働きたい」と願っている人たちを支援していければと思います。

ブラザーリビングサービス株式会社

気軽なコミュニケーションで業務スピードが向上
バーチャル空間で在宅勤務が気兼ねなくできる環境を実現



代表取締役 青木様 (右)
総務部 小野寺様 (左)

会社名
ブラザーリビングサービス株式会社
(公式サイト)<https://brother-living-service.co.jp/>

企業概要
名古屋市瑞穂区に本社を持ち、ブラザーグループ内の警備・清掃・植栽管理・社内便配達・フードサポートなどを行う。

取材対象者
代表取締役 青木様
総務部 小野寺様

企業規模
100~500名

課題

在宅勤務の拡充を望む一方、あまり活用が進まない

- ・ 出社と在宅勤務メンバーとのやりとりでメールが増え、手間と時間がかかっていた
- ・ 確認したい時にすぐに相手にコンタクトがとれないストレスがあった

導入効果

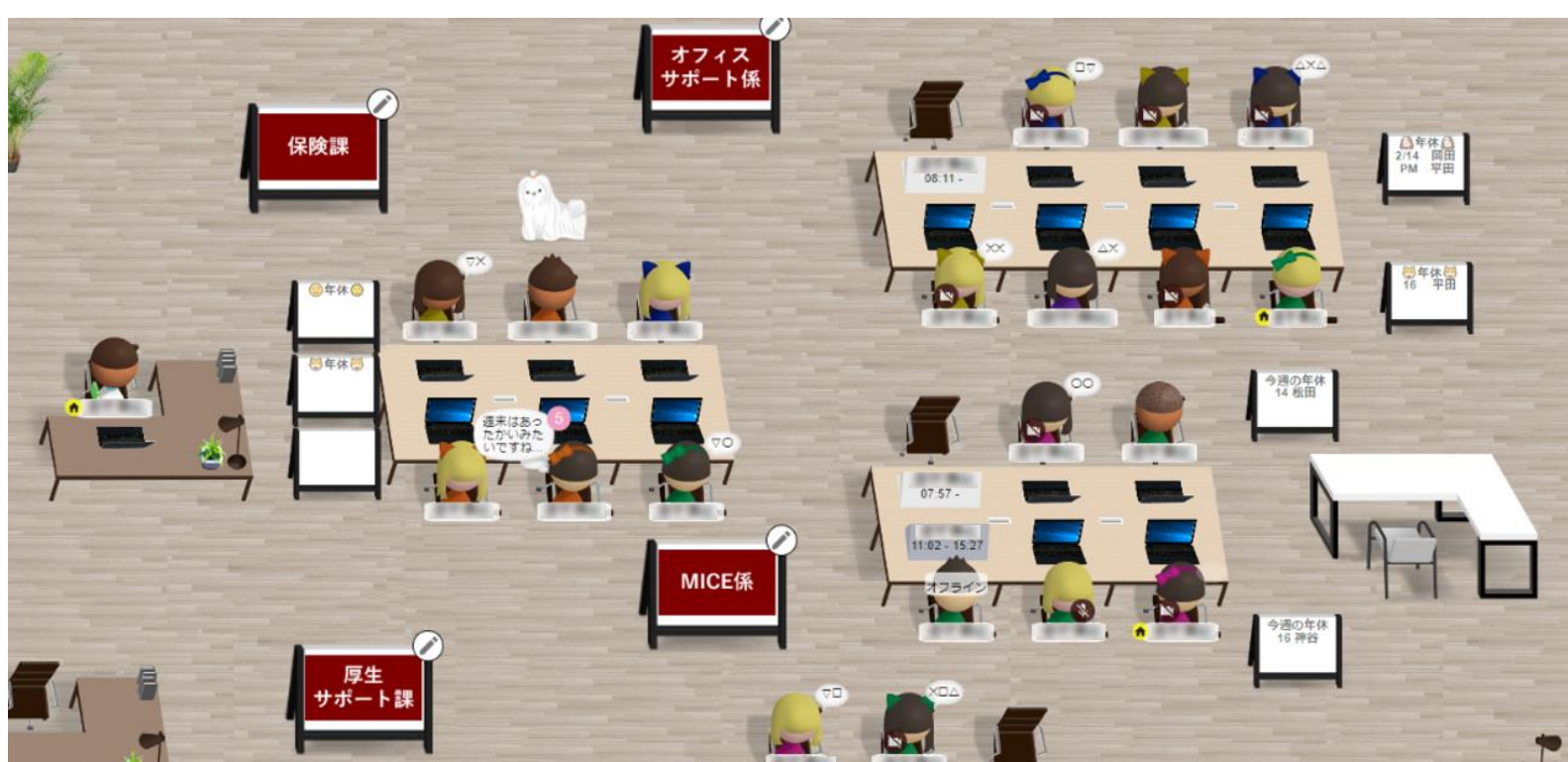
出社場所に関係なく、相手の状況がわかるので、情報伝達速度が上がりコミュニケーション量も増加

- ・ 遠隔からでもすぐに関係者を集め、認識の祖語がなく伝達することができるようになった
- ・ 出社と在宅の間だけでなく、出社している人同士も移動せずに会話ができ、業務スピードが向上した



会話のしやすさから雑談や情報共有、アイデアを創出する環境を構築

勤務場所だけでなく、座席横に看板を設置し、休暇の予定を周知しています。



在宅勤務の拡充を望む一方で、在宅勤務が活用されていない現実が課題に

—FAMofficeを導入する背景を教えてください。

青木様:コロナ禍以前より、弊社では育児や介護を行っている方の働きやすさを重視して、週2日まで在宅勤務を認めていました。最近行った社内のアンケートで在宅勤務の規制を緩めてほしいという声が多数あったにも関わらず、在宅勤務があまり使われていないのが実情でした。そこから、本音は在宅勤務で時間を有効に使いたいけど、在宅勤務により周りの人に迷惑をかけてしまうことを気にしてしまい、遠慮してしまう人が多いのではと仮説を立てました。具体的には、**在宅勤務のメンバーとは、どうしてもメールでのやりとりが増えてしまい、相手に無駄な手間や時間をかけてしまうというものです。**相手の姿が見えないことが、コミュニケーションの障がいと思い、これを解消するツールがないかと探していました。

小野寺様:弊社は出張しないといけない現場作業が大半を占めるため、**間接部門だけ在宅で働くということに心理的な抵抗がある**ようです。その点では、私が在籍している総務部は在宅勤務を積極的に活用していますが、オフィスにいる他部門の方からすると、**聞きたいときにコンタクトをとれないストレスと自宅で働くことへの嫉妬**があるように思いました。このギャップを失くすために、コミュニケーションを取りやすくするだけでなく、**視覚的に社員全員が一か所に集まっているような環境が重要だ**と思いました。

気軽さ、保守、コストを決め手にFAMofficeを選定



—FAMoffice導入の決め手を教えてください。

青木様:**勤務場所や現在の状況をアバターに示せる**ところが良いなと思いました。相手の状況がわからないと話しかけづらいため、状況が可視化されると声かけがしやすくなります。**アバターを重ねるだけで会話ができるというビデオ通話の即時性も良かった**です。

小野寺様:他にもいくつかのバーチャルオフィスツールを試しましたが、気軽さ、保守、コストの3つの要件をバランスよく満たしていたのがFAMofficeでした。具体的には、コミュニケーションの取りやすさはもちろん、運用にITの専門性が要らず自分達ができることが良いと思いました。保守で別途費用が掛かることもなく、コスト面でも他社と比較して安かったため、FAMofficeに決めました。

—FAMofficeをどのように活用していますか。

青木様:ビデオ通話でのコミュニケーションのみではなく、状況把握にも活用しています。これまでは、総務部では、在宅勤務時に勤務開始や退勤時、昼休憩の際に「仕事始めます」などチャットで連絡をしていました。FAMofficeはアバターの有無で判断できるため、**メンバーの状況把握にチャットの必要もなく即時に確認**できます。また、勤務場所も表示するようにし、相手がどこにいるかわかるようにしています。

情報伝達速度が上がり、コミュニケーション量が増加

—FAMofficeを使ってどのような効果がありましたでしょうか。

青木様:在宅の人とのコミュニケーションが以前は少なかったですが、FAMofficeを導入してから**コミュニケーション量が増えました。相手の状況がわかるようになり話しかけやすくなった**ことが一番の要因かと思います。出社している人同士でも、わざわざ相手の席に移動せずにFAMofficeで話しかけられるようになったため、業務スピードの向上に繋がっています。今までは相手のスケジュールを確認して空いているタイミングで話しかけるようにしていましたが、ステータスを見るだけで声をかけても良いか判断できるのは非常に便利です。

小野寺様:情報伝達速度が格段に上がりました。今までは複数人に伝えたいことがあった際は、全員のスケジュールを見て会議を設定する必要がありましたが、これがとてもストレスでした。FAMofficeは「**ちょっと手の空いている人集まって**」と**チャットで投げかけて会議を開始**できるのでとても助かっています。メールやチャットだと認識の齟齬や異なった感情の受け止め方をしてしまいがちですが、ビデオ通話により**齟齬なく相手に伝わりやすくなった**ことも効果的でした。



—FAMofficeを使って効果的だと感じたエピソードを教えてください。

青木様:何かトラブルがあった際に私がおのオフィスにはおらず、遠隔でトラブル対処の判断をしなければならない時がありました。FAMofficeはこのような時でも、**現場の社員に事象の説明を聞くところから、関係者を集めて会議を開き、トラブル対処の方針と役割決めを行うところまでをスムーズに行う**ことができました。今まではメールで連絡しており、トラブルに追われながら文章を打たなければならなかったため、現場の社員の負担がかなり大きくありました。この負担を無くし、**素早く情報共有と意思決定**ができたことにFAMofficeを導入してよかったと強く感じました。また、**アバターの動きでトラブル対処の様子が大まかでも推測**できるのは安心感に繋がります。

—今後の展望を教えてください。

青木様:在宅勤務に理解がある総務部を中心に積極的に使っておりますが、まだ活用が進んでいない部署もあります。FAMofficeは使ってみないと便利さが伝わらないため、社員に触れてもらう機会を作ろうと思っています。若手社員を筆頭にキーパーソンを作り、そこから積極的に広めてもらうなどの手法を検討しています。無理に出社せずに在宅でも仕事ができる。そういった働き方を体験してもらいたいです。

小野寺様:FAMofficeは連絡が容易になるだけでなく、そこから**何気ない雑談や情報共有、アイデアが生まれやすい環境が作れる**ことも魅力だと思っています。社員の皆様には、まずは会話の気軽さから体験していただき、そこからFAMofficeを好きになってもらえればと思います。会話を始める際にイヤホンやヘッドセットを準備しておらずバタバタしてしまう方がいるので、社員全員に常時着用可能なヘッドセットを配る等の対応をし、より気軽に声掛けができる環境を作っていきたいと思っています。

oppo

テレワークでの「働きやすい」環境づくりをサポート。
通信容量・デバイス負荷を抑えたコミュニケーションを実現。



人事部 北西様

会社名
オウガ・ジャパン株式会社
(公式サイト)<https://www.oppo.com/jp/>

企業概要
東京都中央区に本社を持ち、OPPOスマートフォン及びIoT製品の輸入・販売を行う。

取材対象者
人事総務部 部長 北西 様

企業規模
100名以下

課題

リモートワークは社員の働きやすさにつながる一方で、コミュニケーション不足が課題

- ・ リモートワークで社員同士が繋がる機会が減少
- ・ 人間関係が構築され辛く、イノベーションや業務改善が行われにくい環境に危機感

導入効果

リモートワークとコミュニケーションの両立を実現

- ・ 他部門とのコミュニケーションに活用
- ・ つぶやきを使った簡易的なコミュニケーション
- ・ リモートワークのコミュニケーション環境を整えることで通勤費を3~4割程度削減



デスクトップアプリでPC起動で全員がサインインできる環境を構築

PCを起動している人は全員FAMofficeにしているという状況を作り、誰にでも声掛けをしやすい環境を構築しています。

リモートワークは社員の働きやすさにつながる一方で、コミュニケーション不足が課題に

—FAMofficeを導入する背景を教えてください。

弊社では週2日を上限としたリモートワークにより、社員の通勤時のストレス軽減と時間効率の向上を図っています。もともとはコロナ禍で始めたハイブリッドワークでしたが、外回りが多く出社する必要のない社員も多かった為、現在でもハイブリッドワークを継続しております。しかし、顔を合わせることによるコミュニケーションもイノベーションや業務効率化を生み出すために大切です。そのため当時はリモートワークとコミュニケーションの両立に課題を感じていました。

—なぜ顔を合わせることによるコミュニケーションが大切なのでしょう？
仕事というものは一人では完結できないものであり、人と人との関係性で成り立つものだと考えています。一人で仕事をすると事務的な業務で終わってしまい、そうするとイノベーションが起こりません。また、業務で不具合が生じた際に、一人だと事象の解決だけで終わってしまい、グループをまたいでの業務改善も生まれません。このようなイノベーションや業務改善は人間関係があって生まれるものであり、**人間関係構築にはコミュニケーションが不可欠**です。しかし、リモートワークはコミュニケーションが生まれにくい環境でもあります。人と人との関係性を失くすわけにはいかないと思い、リモートワークのコミュニケーションを補完するためにバーチャルオフィスツールの導入を検討しました。

価格と操作性が導入の決め手に

—FAMoffice導入の決め手を教えてください。

操作がシンプルでわかりやすいところです。よくあるバーチャルオフィスツールでは、近くにいる人に会話を聞かれないように配慮する必要があるのですが、**FAMofficeはアバターを重ねた相手や同じ会議室に座っている相手にしか声が聞こえない**ようになっています。このため、気兼ねなく簡単に話かけられるのが良いと思いました。**価格も安価**だったこともあり、他サービスと比較した上でFAMofficeの導入を決断しました。



リモートワークに寄せた働き方をサポートし、通勤費用の削減に貢献

—FAMofficeをどのように活用しているか教えてください。

弊社ではデスクトップアプリをインストールし、全員がPC起動時に自動でサインインできるようにしています。デスクトップアプリはサインイン漏れを防ぎ、PCを起動している社員とはいつでも会話できる状況を作れることが良いと思いました。外出中の社員はオフラインとなってしまいますが、在宅・出社の社員はいつでも状況を把握し、コミュニケーションを取れるようにしております。勤務先がマークとして表示されるため、直接話しかけるのか、FAMofficeで話しかけるのかをマークを見て判断できるのも良いと思っています。

—社員の方がFAMofficeを使っている様子はいかがでしょう。

リモートワークの社員が他の社員とコミュニケーションを取っている様子が画面上で確認できました。特に他部門とコミュニケーションが必要な社員は、連携のためにFAMofficeを良く活用していたように思います。また、ビデオ通話によるコミュニケーションだけでなく、**つぶやきによる簡易的なコミュニケーション**も行われていました。ちょっとした世間話や「〇日休みます」という業務連絡など様々な用途で使用されていました。**つぶやきは気軽に使えることから利用している人が多かった**です。

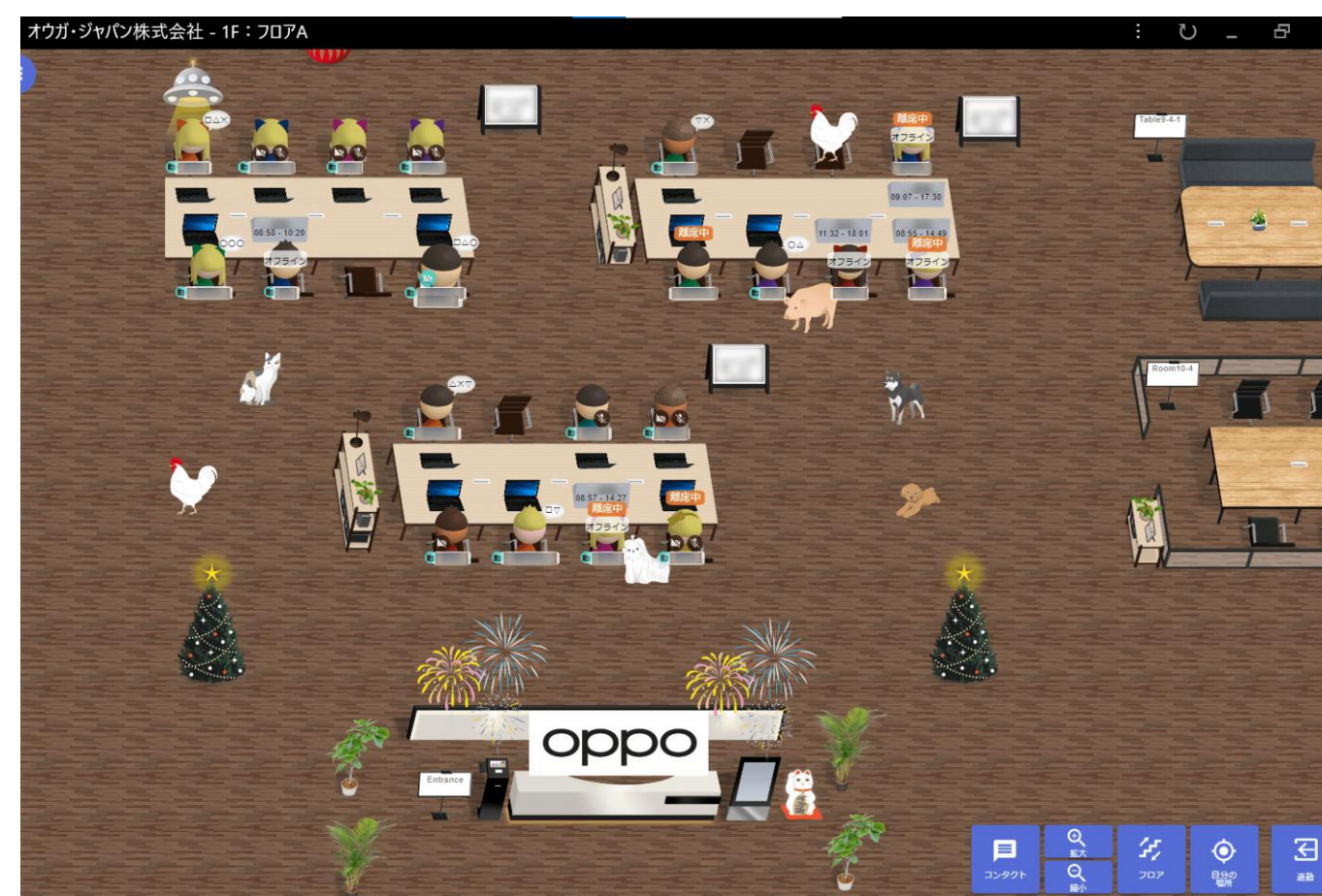
—FAMoffice導入による効果を教えてください。

リモートワークに寄せた働き方を推進したことで、**通勤費を3割～4割程度削減**することができました。この効果は全てFAMofficeによるものという訳ではないですが、リモートワークに寄せた働き方を実現させるための1つとしてFAMofficeを導入したので、通勤費削減に向けた1種のトリガーになったかと思います。

人間関係の構築が組織マネジメントの効率化につながる

—今後FAMofficeをどう活用していきたいですか？

社員の皆さんには人に興味を持つことを大切にしてほしいです。先ほど仕事は人と人との関係で成り立つとお伝えしましたが、**まず相手に興味を持たないと良い関係性は築けない**と思っています。組織マネジメントの効率化を上げていくために「フレームワークなどロジカルな業務フローがきちりあること」が必要ですが、それだけでなく「人間性」も重要だと思っています。もちろんコミュニケーションを強制化するつもりはありませんが、FAMofficeを通してリモートワークでも今後さらに相手に関心を持ち、人と人との関係性を築いていけたらと思っています。



PCを起動している人は全員FAMofficeにいるという状況を作り、誰にでも声掛けをしやすい環境を構築しています。

手渡すように届けたい
ていねい通販
 (株)生活総合サービス

**テレワークでの「働きやすい」環境づくりをサポート。
 通信容量・デバイス負荷を抑えたコミュニケーションを実現。**



高津様

会社名
 株式会社生活総合サービス
 (公式サイト)<https://www.teinei.co.jp/>

企業概要
 大阪府に本社を持ち、健康食品・化粧品等の通信販売業

取材対象者
 高津 様

企業規模
 100名以下

課題

気軽に話しかけられる環境づくりにWEB会議ツールを使うもデバイス負荷と通信容量

- 相手を見て声をかける環境が突然なくなってしまった
- WEB会議ツールを繋げたままの運用をしていたがデバイスの故障が多く見られた
- 通信容量が100GBを超えてしまい、ポケットWi-Fiの契約を維持できなくなった

導入効果

相手の見える化会話する時のみのビデオ通話でデバイス負荷と通信容量の課題を解決

- 相手の状況を確認した上で声をかけられる
- デバイス故障が激減
- 100GBを超えることなく、通信容量を抑えて運用



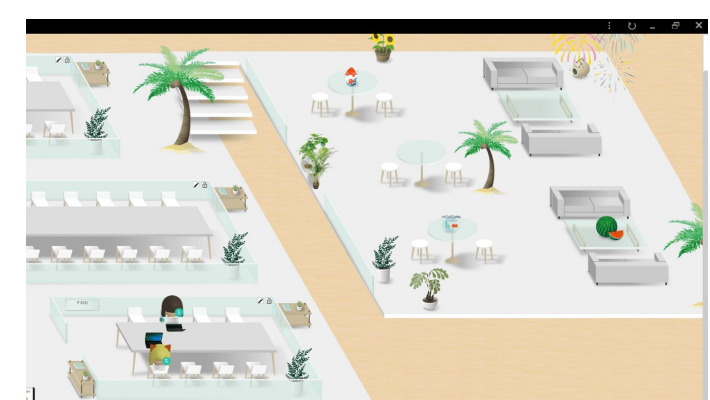
生活総合サービス様ではFAMofficeの機能を工夫して使うことで、バーチャルでも働きやすい空間を構築しております。



ツールランチャーで全社員が集まれるようにWEB会議ツールのリンクを貼付



看板で他ツールや社内業務の確認フォルダへ瞬時にアクセス可能



ちょっとした雑談部屋を他の社員に見られづらい画面端に設置

WEB会議ツールでコミュニケーション環境を整えるも通信容量とデバイス負荷が課題に

—FAMofficeを導入する背景を教えてください。

弊社では働きやすい環境を整えることを大切にしており、コロナ禍前から働く時間を自分で決められるフレックスタイムの導入など働き方の見直しを進めておりました。その後コロナウイルスの感染拡大が進む中で、働く場所も自分で決める働き方もできるのではないかと考えるようになりました。働きやすさの先に、企業としての結果も繋がると思っています。台風で電車が遅延しても出勤しなければならず、お昼に会社に到着してから作業開始となるような働き方が、本当に働きやすいのかと疑問に感じていました。このこともあり、テレワークの実施が仕事の効率・結果に繋がると判断し、弊社では早期から在宅勤務ができる環境へと移行しました。

—テレワークに移行したことで生じた課題はありましたか？

弊社ではもとよりワンフロアのオフィスで周囲の様子が見えるようにし、気遣いや情報共有などコミュニケーションが親密に取れる環境を整えていました。そのため、テレワーク導入によりみんなの状況が見える環境がなくなってしまうことはかなり苦しくもありました。この状況を打開するためにチーム毎に**WEB会議ルームを設置し、全員繋ぎっぱなしで運用していましたが、デバイスの負荷がかかりすぎてPCが壊れてしまうことが多々ありました。**また、社員にはポケットWi-Fiを配布しておりましたが、**100GBを超えてしまう人もいるくらい通信容量がかかっており、契約した容量で運用を継続させることが難しくもありました。**周囲を気遣い、助け合う環境を作るためには**お互いの状況が見えることが大切だ**と考えています。デバイスの負荷を抑え、通信容量を軽減しながらもみんなと繋がっている環境を作れないかと解決策を模索していたところFAMofficeに出会いました。

アバターでの見える化と話したい時のみのビデオ通話で通信容量とデバイス負荷の課題を解決

—FAMofficeを使ってみて便利だと思った点はありましたか。

パソコンを起動した際に自動で立ち上がり、設定した席に自動で座ってくれるというのが良かったです。チームごとに席を固めているので、例えば今日システム部って誰がいるんだっけ？と思った時に**俯瞰ですぐに確認することができます。**また、IP登録すると出社した人には出社マークが付くため、**会社でしかできない業務を誰に頼めば良いかすぐに判断**することができるようになり、すごく助かりました。FAMofficeは**相手の状況を把握するのにとても向いている**と思います。

—FAMoffice導入により当初抱えていた課題は解決できましたか。

通信容量は100GBを超える例はほぼ見ることがなく、求めていた容量まで下げることができました。デバイス負荷も以前より軽くなり、**PCが故障するケースは激減**しました。ビデオ通話をしなくても相手の様子を見ることができ、話したい時だけビデオ通話が作動する仕様が課題解決に繋がりました。

日々の業務をバーチャルでどう置き換えるかを考えることで働きやすさを追求

—FAMofficeを運用するにあたってどのような工夫をしていますか？

ツールランチャーや看板を使って、外部ツールにアクセスしやすい状況を作っています。例えば社員全員が集まる朝礼では、FAMofficeで朝礼をやるとアバターが一か所に集まってごちゃっとしてしまうのでWEB会議ツールを使うのですが、全員がすぐにWEB会議に参加できるように**ツールランチャーで会議URLのリンクを貼ってアクセス**できるようにしています。

また、病気療養や家族の問題など、個人の労務の相談は、より表情を見ながら会話したいためWEB会議ツールを使うようにしています。その際、FAMofficeからWEB会議部屋に入れるように**看板にWEB会議ツールのリンクを設定し、看板をクリックするだけでアクセス**できるようにしています。FAMofficeはアバターの動きで誰と誰が話しているのか見ることが特徴ではありますが、労務などのセンシティブな相談は会話しているところを見られたくないものです。用途に応じてツールを使い分けるだけでなく、FAMofficeからいかに他ツールにアクセスしやすくするかも工夫しています。

看板機能は他にも自社製品の紹介動画や社内業務を確認するためのフォルダなどのリンクを設定しており、別のツールを開きたい、わからないことを確認したい時にすぐにアクセスできるようにしています。

—運用方法を考える際にどのようなことを意識しましたか？

日々の業務をバーチャルで置き換えた時にどのような運用になるのかを考えながらFAMofficeの運用設計をしています。新しい環境になると、うまくやれるだろうかと不安に思う人は絶対に出てきます。その不安を払拭するために**各チーム何名か**に**お願いして使い勝手を確認し、働く上でどのような問題点があるかを挙げてもらう**ようにしていました。そこからFAMofficeのこの機能なら改善できるのではないかと模索しながらフロアレイアウトや運用方法を考えています。周りを意識しないでちょっとした雑談できる場所が欲しいとなった時に、画面右上の目立たないところに雑談ルームを設置し、自由にコミュニケーションが取れる場を作ったりもしていました。

チーム間の連携には相手を気にかけることが必要不可欠

—今後FAMofficeをどう活用していきたいですか？

弊社ではお互いに気遣える、助け合えることを全員出社の時から大切にしていました。1個の施策をやるにしても色んなチームが繋がって仕事が成り立つと思っていて、協力して仕事を進めるためには、「今は忙しそうだから声をかけるのは後にしよう」など**相手を気にかけることが大切だ**と考えています。テレワークで周りに人がいない状況でもFAMofficeで相手を見ながら気遣いや助け合いができる環境がどんどん生まれていけばと思います。



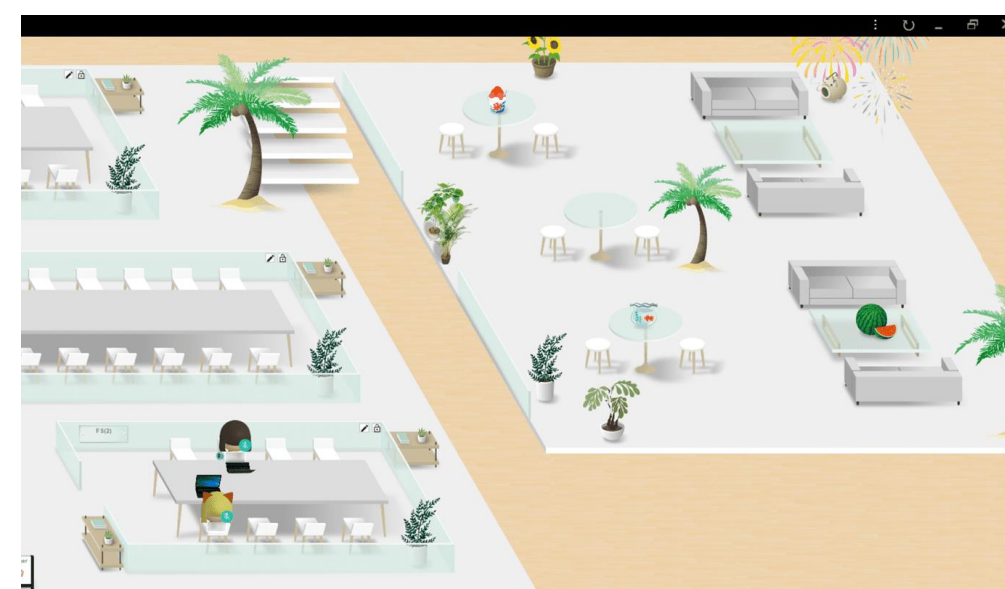
ツールランチャー

管理者があらかじめ設定したURLを表示させることができます。社内イントラやTeams、Zoom等、よく利用するURLを登録しておくことで業務効率があがります。



看板

看板に文字や画像を貼り付けて掲示することができます。URLを設定すると、リンク先にアクセスすることができ、WEB会議ツールのURLや他ITツールに遷移させることも可能です。



雑談部屋

他の人に見られにくい位置に雑談部屋を設置することで、ちょっとした雑談を作りやすい状況を構築しています。

※当事例は2023年11月時点の情報です。



フォーマルではなくフランクな場に!

全国からバーチャル上で1つに集まる横のコミュニケーションの場の生成



代表取締役社長 西岡様（一番右）

会社名
日本リージャスホールディングス株式会社
(公式サイト)<https://www.regus-office.jp/>

企業概要
東京都新宿区に本店を持ち、全国174拠点にてレンタルオフィスサービス業を行う。

取材対象者
代表取締役社長 西岡 様

企業規模
100~500名

課題

拠点が離れているため、同僚同士の横のつながりがない

- ちょっとした相談事などナレッジを共有する機会が少ない
- ひとりで作業することが多く、息抜きの場がない
- フォーマルなコミュニケーションツールだと面識のない人に話しかけづらい

導入効果

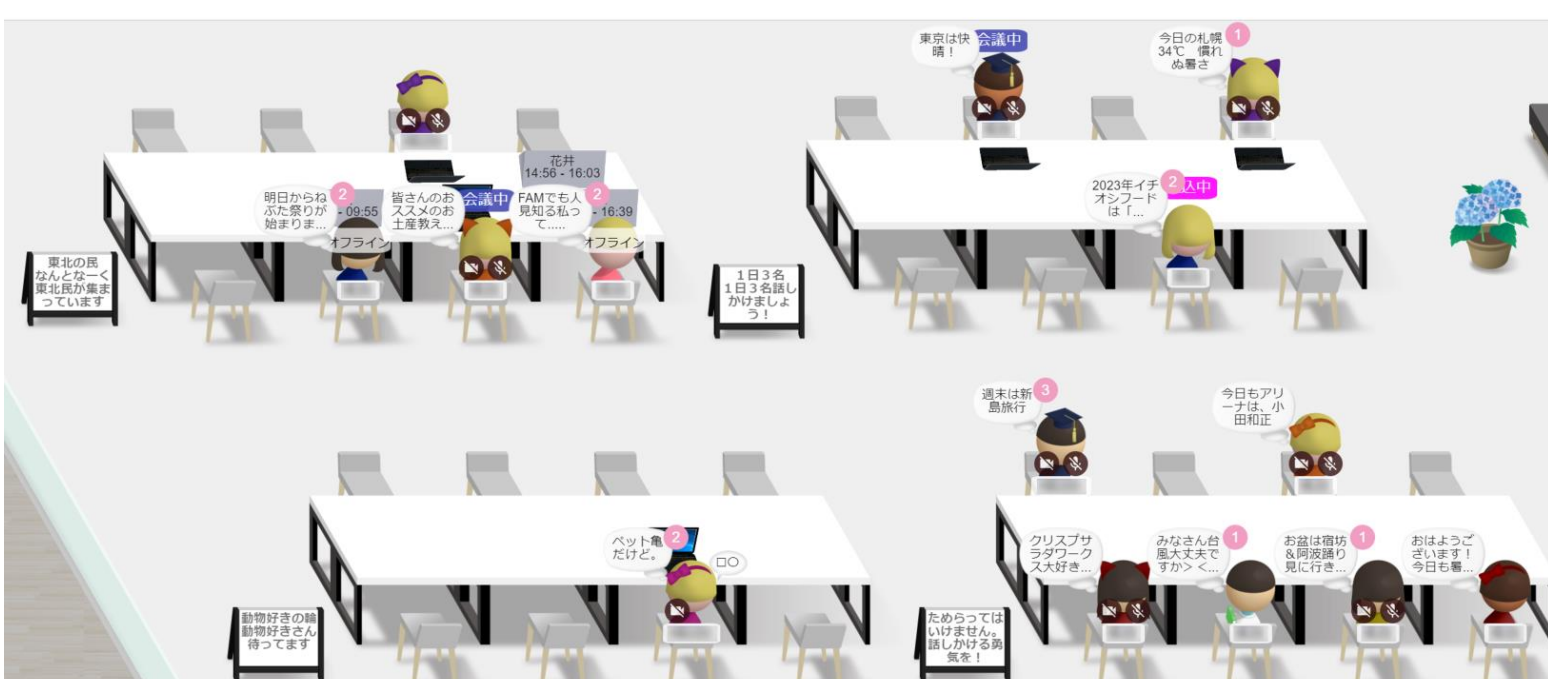
同僚だけで繋がれる横のコミュニケーションの場を生成

- バーチャル上に遠く離れた同僚と雑談や相談ができるコミュニケーションの場を構築
- 全国平等に価値を提供できる福利厚生として活用



会話のテーマを設けることで、コミュニケーションのきっかけをつくる

会話のテーマを設けてつぶやき機能でコメントしてもらうことでコミュニケーションのきっかけをつくっています。



拠点が離れているため、横の繋がりが持てないことへの課題感

—FAMofficeを導入する背景を教えてください。

西岡様:社員に対して働く上での困りごとのアンケートを実施した結果、コミュニケーションが取れないことを挙げている社員が多くいました。弊社は全国50都市174か所にレンタルオフィスを展開しております。そこに270~280名ほどの社員が各地に配属されているため、1か所に1~2名程度しか社員がいない状況です。上司も別の拠点で働いていることから、上司との顔を合わせての会話は月1回程度で、連絡は電話やTeamsなど遠隔でのやり取りが基本です。つまり、弊社では出社がメインとはなっておりますが、ひとりひとり出社する場所が異なるため**拠点でリモートワークを行っているような状態**です。そのため、社員同士のつながりがほとんどないことにより、様々な課題が生じておりました。

—具体的にどのような課題があったのでしょうか？

西岡様:まず、新しく入社した社員が会社の**ノウハウを知る機会が少ない**ことが課題でした。周りに社員がいるという環境が本社以外にないため、相談事があれば遠方にいる上司にしています。もちろん、電話やTeamsなどで連絡すれば上司は対応してくれますが、**わざわざ電話するほどでもないちょっとした相談事は遠慮してしまてできない**という状況にありました。一般的な会社では近くにいる同僚に相談すれば済みますが、拠点が離れていて面識のない同僚いきなりTeamsで話しかけるのはハードルが高いです。

また、一人で作業することが多い受付業務の方は、ちょっとした雑談をする機会がありません。同僚と話すことによる**息抜きができないため、孤独に感じる方も多い**のではと思いました。このことから、Teamsで行うような**フォーマルな会話ではない、ちょっとした相談事や息抜きなど、横同士の会話の場**を設けることが重要だと判断しました。

FAMofficeは心理的距離を近づけられるコミュニケーションツール

—FAMofficeに着目した理由を教えてください。

西岡様:課題を解決できる手法を調べていく中で、仮想オフィスの存在を知りました。仮想オフィスは「この人は今忙しい」「今話しかけられる」「今日は休み」などを視覚的に判断できます。これが心理的な距離を近づける効果があると思いました。初対面同士でのコミュニケーションを生み出すためには、**いかにして心理的な距離を近づけられるかが重要**だと思っていました。アバターがいることで相手がいることを実感でき、様子がわかるからこそ、Teamsのようなチャットで繋がるフォーマルなコミュニケーションとは違う、距離感を近づけられるコミュニケーションツールとしてFAMofficeは最適だと判断しました。



左から 代表取締役社長 西岡様
HR Director 吉田様

仮想上に同僚だけで繋がれる自由でフランクな場を構築

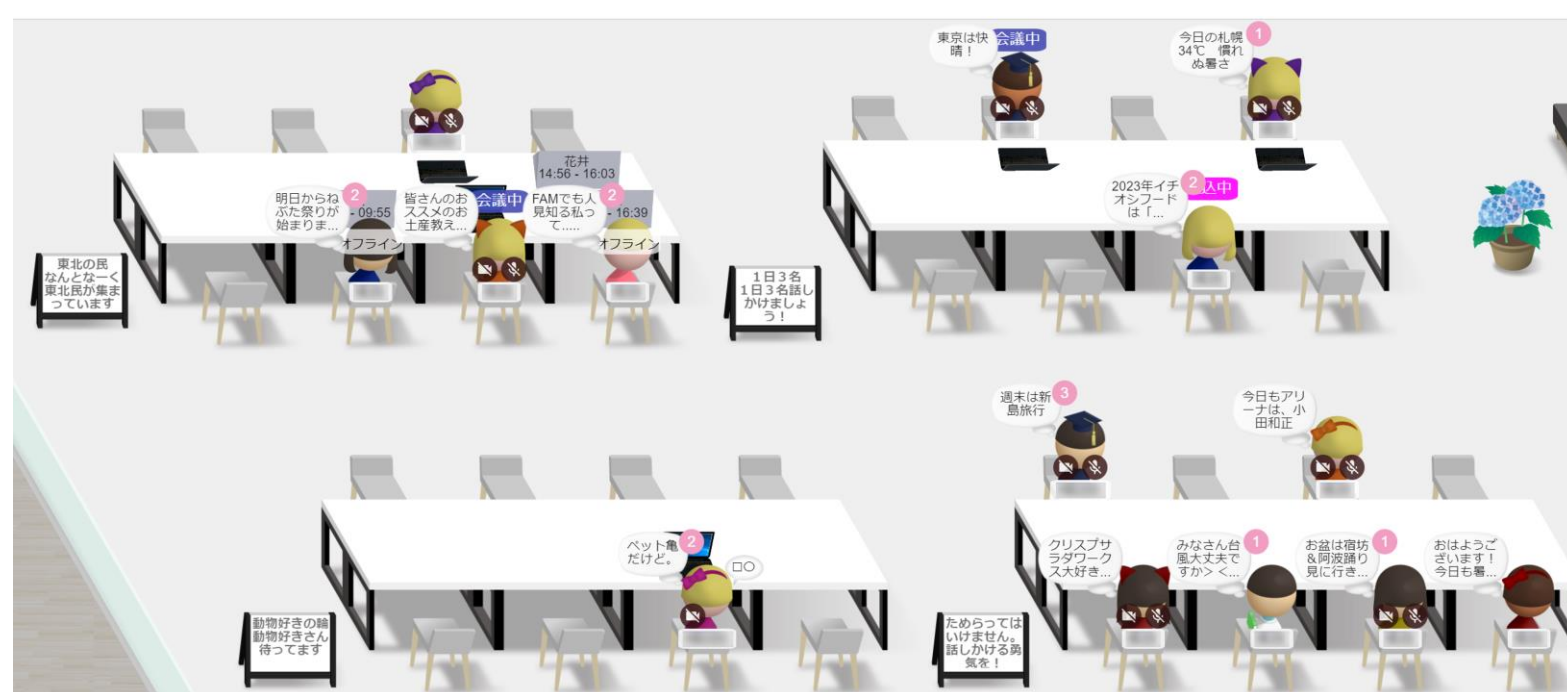
—FAMofficeをどのように活用しているのでしょうか。

西岡様:横のコミュニケーションを形成するために、私やディレクター、マネジメント層などは入らないようにしています。上の人間が入ってしまうと萎縮や遠慮が生まれてしまいます。そのためまずは各地に配属されている社員たちだけに入ってもらう、自由に使っていいよと伝えていきます。会話の内容も**業務連絡の場とは言わず、雑談やちょっとした仕事の愚痴なども自由に発言しても良いように**伝えていきます。そうしていくことで、**社員同士が馴染んでいき、上司には話づらいちょっとした相談やナレッジが共有できる場が自然と生まれていく**と考えています。

—初対面同士の社員が会話を促進させるためにどのような工夫をされましたか？

西岡様:とはいえ初対面同士の社員に自由に話してと言っても、初めのうちは中々会話が生まれにくいと思います。そのため、アクティブにコミュニケーションを取れる人に協力してもらい、積極的に話しかけてもらうようお願いしています。場を盛り上げる人を用意しておくことで、周りがつられていき自然とコミュニケーションが増えると思いました。**会話の促進や利用定着のためには、積極的に動いてくれる一部社員の協力が必須**だと思います。

吉田様:会話のきっかけをつくるために、会話のテーマを設けたりもしています。例えば「おすすめの食べ物を教えてください」などの**テーマを設定して、つぶやき機能で表示してもらうようにしています**。このような吹き出しでのちょっとしたコミュニケーションからでも社員同士の距離が縮まっていけばと思っています。



—FAMoffice導入によりどのような効果を感じましたか？

吉田様:まだ導入が始まって間もないですが、まずはつぶやきでの会話から皆さん楽しんで使ってくれています。看板の内容を自分で変えて、会話のきっかけを作っている社員もいます。まだ探り探りではありますが、横のつながりが生まれてきていると実感しています。物理的な距離を手助けし、隣に座っている、この感覚が重要だと感じています。

何より、「FAMofficeがとっても楽しいです」と言ってくれた社員がいることにとっても嬉しく思っています。遠くにいる社員は、会社との距離感を感じて日々仕事をしていると思います。しかし、FAMoffice導入により、社員が抱える日々の細かい問題の解決策を、バーチャルの世界ではあるものの、分かりやすく提供することができ、少しでも会社との距離を縮めるお手伝いできたのではないかと思います。**全国平等に価値を提供できたFAMofficeは最も受け入れやすい福利厚生**の1つだと思っています。



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

「一緒に働いている感」が孤独感の解消に！ テレワークでの「横のコミュニケーション」による安心感を醸成



会社名
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
(公式サイト)<https://www.murc.jp/>

企業概要
東京都港区に本社を持ち、政策・産業視点のシンクタンク業と経営・機能視点のコンサルティング業を行う。

取材対象者
取締役専務執行役員 金谷様

企業規模
1,000名以上

課題

- 新たに入社した社員が打ち解ける環境がない
- テレワークにより隣同士で行っていた気軽なコミュニケーションが減少
 - 雑談などを行う機会がなくなり、新入社員や中途入社が会社に馴染み、ロイヤルティを持てる環境がないことへの危機感

導入効果

- 横のコミュニケーションを生み出し、安心感を醸成
- つぶやきでコミュニケーションのきっかけを作れる
 - 一緒に作業をしている安心感から孤独感の解消



つぶやき機能を活用して社員に関心を持つきっかけを創出

つぶやきは業務内容や雑談など、伝えたいことを吹き出しに表示できます。

※画像はイメージです。

中途社員や新入社員が打ち解ける環境がないことへの危機感

――FAMofficeを導入する背景を教えてください。

新型コロナウイルスの影響でテレワークの実施を余儀なくされましたが、弊社ではTeamsやZoomを使えるようにすることで、リモートでもほぼ全社員が支障なく業務を行えるようになりました。しかし、**新たに入社した方などが、どのように社内**でコミュニケーションを取るの**のが大きな課題**となりました。今まで一緒に働いてきた仲間であれば在宅勤務でも違和感はありませんが、中途入社や新入社員が打ち解けて他の人と接点を持ち、会社に対してロイヤリティを持てるかを考えたときに、とても危機感を覚えました。

メールやチャットでは雑談をすることが難しく、Teamsなども人数が多いほどコミュニケーションが生まれにくいものです。今までは毎日のように隣で顔を合わせて雑談をしていた人が、半年間1回も話をしない、ということもあるという状況になってしまったのです。

弊社は、コロナ禍が過ぎ去った後も、在宅勤務、リモートワークを継続していきます。だからこそ、このコミュニケーションの課題には、真剣に取り組まなければならないのです。

決め手は「リアルの世界に近いもの」。

一緒に働いているのが実感できるからこそその安心感

――課題解決のためにFAMofficeを選ばれた理由は何でしょうか？

さまざまなツールを調べていく中で、「バーチャルオフィスツール」にみんなが求めるものは**「リアルの世界に近いもの」**だと感じました。それが仕事をするうえでの安心感につながると思ったのです。リアルなオフィスのように**自分が勤務している姿を実感できるもの、今まで隣にいた人が隣にいることを実感できるもの**、そういったものでないといけないと探している中、FAMofficeを見て、「私のイメージにぴったり」だと感じ、即決しました。「この製品を絶対入れよう」という気持ちになったのです。

――その決め手は何でしょうか。

全体として「社内のイメージに合っている」ということですが、特定の機能を挙げるとすると、「**吹き出しが動いている**」ことです。そういう「動きがあること」に、安心や温かさを感じました。**他の人のつぶやきが見えると、「何か作業をしている」状況が見えます**。リアルなオフィスでも、周囲が話している声が聞き取れるわけではなくても、誰かと誰かが話していることや、周りに人がいることで安心感がありますが、そういったものをFAMofficeから感じられました。



FAMofficeで隣に座っていた人と話すような「横のコミュニケーション」を実現

――FAMofficeの導入によりどのような効果を感じましたか？

毎日のミーティングなど、上司と部下との仕事のやり取りのような「縦のコミュニケーション」は比較的取れるものです。しかし、**隣に座っていた人と話す**というような「横のコミュニケーション」はなかなか取れませんでした。旅行に行った場所や読んだ本、ちょっとした体調の変化など、雑談がないと同僚の情報が入ってこないわけです。つぶやき機能があるおかげで、同僚の関心事がわかり、そしてそのつぶやきに対する周囲の反応があるのです。つぶやきに対して「いいね」などと反応があ

ることで、「見てくれている」と感じられるFAMofficeは、ビジネスツールというよりも「横のコミュニケーション」のツールだと感じています。

他人のつぶやきに関心を持ってもらうのがコミュニケーションの第一歩

――運用を始めたときに使用を呼びかけたり、ルールを定めたりしましたか？

まずはFAMofficeに「みんなが入る」「入って楽しむ」ということを伝えました。**面白くないと入ってこない**ので、あまり制限をかけずに**「皆さん、遊び心満載で、使ってください**という話をしています。また、導入にあたって社内で開催した説明会の冒頭では、私の思いとして、「FAMofficeに出社したらまずはつぶやいてください。朝の挨拶をすると同じです。」「他人のつぶやきに対して関心を持ってください」ということをお願いしました。この**「他人に関心を持つ」ということが、コミュニケーションの第一歩**であると考えています。今までのようなリアルな会社に出勤し、働いて退社するという生活が、「FAMofficeに出社し、そこで働いて、退社する」生活に変わり、日常的な感覚として、定着してほしいと思っています。

――運用するにあたって大切にしていることは何ですか？

弊社の社員の中にも、「こんなツールいらないよ」という人はいるでしょう。メールがあり、Teamsがあり、Zoomがある中で、なぜまた新しいツールを入れるのだ、という意見は多少なりともありました。しかし、私は、社員に対し、「自分にとって要るか要らないかではなくて、**会社の中には、ちょっと孤独に感じている人や寂しい気持ちを持っている人、誰かとつながりたいと思っている人はいる。同じ会社で働くその人たちのためにFAMofficeに積極的に参加してほしい**」と伝えています。FAMofficeを使い、「一緒に働いている感」を共有することで、心が和やかになる、孤独感から解放される、そういった人が1人でもいるのであれば、私はうれしいし、成功だったと思います。導入決定プロセスにおいても、「いる」「いない」という2択を多数決で決めるのではなく、1人でも喜ぶ人がいれば導入するつもりであるということをお伝えしました。

必要なのは「リアル」と「バーチャル」のハイブリッドなコミュニケーション

――今後どのように活用していこうとお考えですか？

現状では、毎日のようにZoomでミーティングをしている相手とエレベーターで一緒になっても気づかない、といったことがあるという話も聞きます。その人が持っている雰囲気などがオンラインでは伝わらないのです。リアルである程度コミュニケーションしていた相手とリモートでやり取りするのはよいと思いますが、新入社員で2年から3年という期間を在宅勤務で過ごしていると、自分の上司など直接的に関わる10人ぐらいしか社員を知らない、といった状況になってしまいます。そういう人たちにとって、リアルなコミュニケーションは重要であり、リアルな世界を経験したうえで、またバーチャルに入っていくと、コミュニケーションの取り方が変わってくるとおもいます。リアルとハイブリッドで活用していかないといけないと感じています。



※画像はイメージです。

※当事例は2023年5月時点の情報です。

綾羽株式会社 様



会社名
綾羽株式会社

所在地
滋賀県大津市におの浜1丁目1番3号

URL
<https://ayaha.co.jp/>



(左から) 人事・教育部 藤井様
人事・教育部 山本様

複数ツールを介さないワンストップなやり取りでコミュニケーションがスムーズに

導入前

テレワークでもしっかりコミュニケーションを取りたい

導入後

- ✓複数のツールを介さずコミュニケーションが取れる
- ✓会議室に入るだけで簡単にビデオ会議できる

FAMofficeを導入したきっかけについて教えてください。

山本:新型コロナウイルスが流行して、弊社でもテレワークが始まりました。私たちの上司に当たる管理本部長や人事部長が、コロナを“働き方を変えるチャンス”だと捉えていたことが大きいですね。テレワークでも皆がしっかりコミュニケーションを取るためにはどうすればよいかという課題を、藤井をはじめとした若手に投げかけ、最初は別の仮想オフィスをトライアルで利用していました。

他社の仮想オフィスから乗り換えた理由はなんですか？

藤井:一番大きな理由は、セキュリティ上の問題でした。弊社のシステム部に導入を相談したところ、「セキュリティ上、導入しづらい」と……。そこで、様々な仮想オフィスを調べていく中で、セキュリティの観点で問題がなく、サポート体制が手厚かったFAMofficeに決めました。

サポート体制が手厚いという話がありましたが、なにかエピソードはありますか？

藤井:トライアルのときに何名かから「通話機能で声がうまく聞こえない」など不具合の報告が上がったことがありました。その件でFAMofficeのサポートセンターに電話したときに、マイクの不具合だったり、パソコンの問題だったり、周辺機器の問題も含め原因だと考えられる事象を全て挙げてくれ、対処法をいくつも教えてくれました。また、導入後も不具合があった際に、同じように考えられる可能性を複数提示してくれました。不具合やエラーが起きたときは、何が起きたのか不安なところもあるので、こうしてありとあらゆる可能性や複数の解決策を提示してくれるのは、とても安心できました。

利用定着に向けて苦労されたことはありますか？

山本:人事・教育部は比較的テレワークを行いやすい一方、採用活動などで出社する必要もあり、出社率も在宅率も適度にある、という働き方に多様な環境がある部署です。加えて、上司が新しい働き方に積極的ということもあり、新しいツールを導入しやすい環境でした。

藤井:先ほどお話したように、FAMofficeの導入前に他社の仮想オフィスをトライアルしていたということもあり、ツールに対する抵抗感はなかったと思います。また、トライアルしていたものと使用感が似ている部分もあったので、みんなスムーズに使ってくれていたと思います。

山本:とはいえ、最初はやはり抵抗感を持つ人もいたと思います。それについては、藤井が毎朝の朝礼などで、「こんな機能もある」「こんな使い方もできる」と活用に向け、積極的に働きかけてくれました。抵抗感があった人も、藤井の話を知っているうちに「そんなに難しいものじゃないんだな」と理解してくれたのだと思います。

FAMofficeで最もよいと思うところはどんなところですか？

藤井:複数のツールを介さなくても、コミュニケーションが取れる点です。オンラインMTGを行う上でも、普段ならZoomのURLを設定する、メールで連絡する、Zoomを開く……という工程が必要ですが、FAMofficeであれば、画面上に設けた部屋に行くだけでつなぐことができます。朝礼や定期的なMTGなどは、あらかじめZoomを設定して活用しています。また、Zoomを設定してなくてもFAMoffice上で簡単に画面共有などを行えるので助かっています。

株式会社アイジーコンサルティング 様



会社名
株式会社アイジーコンサルティング

所在地
静岡県浜松市中区住吉4-9-5

URL
<https://ig-consulting.co.jp/>



(左から) 東京事業本部 マネージャー 田中様
メンテナンス事業部営業事務課 森様

従業員同士の理解が促進！ 多拠点ならではのコミュニケーション問題を解決

導入前

別の営業所の人たちと一緒に働いている感がない
中途入社社員や新入社員の人柄が分からない

導入後

- ✓ 拠点間の一体感醸成
- ✓ 誰が出勤しているのかがひと目で分かる
- ✓ つぶやき機能で同僚の人柄が見える

FAMofficeを導入したきっかけについて教えてください。

田中:働き方改革については、導入前から進めてきていて、緊急事態宣言以降、さらに拍車がかかりました。この東京事業本部もその一環で昨年の5月にできたばかりなんです。それまではなんとなくか、“ザ・事務所”という感じだったのですが、採用や社員のエンゲージメントの観点から新しく移転しました。そんな中、東京ビッグサイトで開催された「働き方改革EXPO」でFAMofficeを見つけて、「これは面白い」と感じて導入を決めました。

どんな風に利用しようというような展望はあったのでしょうか？

田中:課題解決のために導入したというよりは、働き方改革に利用できるかもしれない、という感覚で、最初は探り探りという状態でした。トライアルの期間は関東圏の店舗を中心に、外回りの営業も含めて利用していたのですが、今は内勤の営業事務の方々を中心に利用してもらっています。私たちは岐阜から千葉まで、全国に20ほどの営業所を持っており、1店舗に1人営業事務を行っている者がいます。この全国の営業事務の方々にFAMofficeで島を作って利用してもらっています。これまでは、同じ課に所属しているものの、離れていたのと一緒に働いている感じではなかったのですが、**どんな人がいて、誰が出勤しているのかがひと目でわかる**ようになりました。

森:やはり、**誰が出社しているかわかるのはとても便利**だと思います。つぶやき機能で業務に関係のないことをつぶやいているスタッフもいます。これまでは電話での連絡が主だったので、仕事以外のコミュニケーションはなかなか取れませんでした。**FAMofficeがあることで、人柄が見えるようになった**ように思います。

導入にあたって苦労した点や工夫した点はありますか？

田中:現在、FAMofficeを使っているメンバーは、携帯電話でのコミュニケーションは禁止というルールで運用しています。初めてこのようなプロジェクトを任されたのですが、苦労した点としては、導入の効果やメリットを言語化して伝えることですね。私は感覚的に良い印象を持ち、FAMofficeの導入を決めたのですが、仕事が増えるという印象を持つメンバーもいました。皆に納得して使ってもらうために、FAMoffice導入の意図やツールの便利さをどうやって伝えるかは慎重に、そして工夫しながら進めました。

今後の展望について教えてください。

田中:現在は、4つある課のうちの一つ、その中でも限られたメンバーでしか運用ができていません。今後は他の課にも利用を広げていきたいと思っています。主に社内コミュニケーションに利用しているFAMofficeですが、営業所が全国に複数ある私たちの場合、1年も経つと全く知らない人が新しく入っていたりします。そんなときに**顔が見られて日常的に使えるコミュニケーションツールがあることは、実は大きな効果があるのではないかと**期待しています。

株式会社データ・アプリケーション様



会社名
株式会社データ・アプリケーション

所在地
東京都中央区京橋1-7-2 ミュージウムタワー京橋13F

URL
<https://www.dal.co.jp/>



社長室長 山崎様

つばやき機能を活用し、リモートワークにおける部署を超えたコミュニケーションを実現

導入前

他部門とのコミュニケーションが取りづらい

FAMofficeを導入するまでの状況を教えてください。

以前は部署ごとにフロアが分かれており、出社していてもコミュニケーションがなかなか取れないことを課題として感じていました。これを改善するため、2020年の2月末にワンフロアで集まれるオフィスに移転したのですが、その矢先に新型コロナウイルスの流行でリモートワークになりました。IT企業なので、リモートでも生産性を落とすことなく業務を続けられましたが、コミュニケーションが取りにくい状況は続いていました。

コロナが落ち着き、出勤率も徐々に増えつつあるとはいえ、完全な出社に戻すことはないと考え、ハイブリッドでどのように運営するのがよいのかを検討し始めました。現在は、ツールを導入した仕組み作りだけでなく、組織のマネジメントを含めて試行錯誤しています。

FAMofficeを導入したきっかけを教えてください。

リモートが中心で部門を超えたコミュニケーションが取りにくいものの、部門内でのコミュニケーションは取れている状況でした。しかし、オフィスをワンフロアにした目的と同じく、他部門とのコミュニケーションが取れるよう、雑談できる方法を検討していました。当社ではMicrosoft Teamsなどを導入していますが、ステータスが反映されない、見えないユーザーや従業員がいる、見にくい、使にくい、という声がありました。社長からは、**オフィスのように誰が出社しているかを一覧で見えるツールが欲しい**という話があり、仮想オフィスツールを探しました。

導入後

- ✓他部署の人の業務状況が見える
- ✓つばやき機能を活用した会話が発生

仮想オフィスツールは他にもいくつかありますが、FAMofficeを選ばれた理由は何ですか？

いろいろな製品をピックアップして使用したところ、ツールの中にはアバターを近づけるだけで音声聞こえるものがありました。実際の働き方に近い使い方ができる反面、従業員側からは「常に聞かれている感があるところが嫌だ」という声がありました。そんな中、**FAMofficeは話している人同士にしか声と映像が届かない**ことを知りました。また、つばやきの機能があるため、リアルタイムでコミュニケーションが取れなくとも、投稿された言葉にリアクションをすれば、タイムラグがありながらもコミュニケーションできるところが当社に合っていると感じました。

FAMofficeで便利だと感じる機能はありますか？

当社は鹿児島に子会社がありますし、副業で業務を担当している方もいます。これまではその姿が見えませんでした。FAMofficeを導入することで**距離が近づいた感覚**があります。直接コミュニケーションを取ることはなくても、物理的な距離の壁を越えられると感じています。

また、**勤務状況の見える化や、孤独を感じる場所を改善する意味で、「ここに来ればみんながいる」とわかる**ことが挙げられます。コミュニケーションの活性化については、ツールを導入するだけで解決できるものではありませんので、他の工夫も考えながら取り組んでいます。

FAMofficeを導入する前後で変わったところはあるですか？

他の部門の方々がどういう状況なのかが見える、というのが一番大きいです。現在の出勤率は3割ぐらいなので、他の人が本当にいるのかという不安がなくなるのは非常に大きいと感じています。

株式会社アクセス情報テクノロジー様

会社名
株式会社アクセス情報テクノロジー



所在地
東京都中央区京橋1-7-2 ミュージアムタワー京橋13F

URL
<http://www.access-it.co.jp/>



(左から) 執行役員 部長 吉永様
代表取締役 会長 渡邊様
執行役員 部長 中俣様

「Cloud事業所」を開設！人材採用にも仮想オフィスを活用

導入前

テレワークを前提とした「Cloud事業所」を作りたい
テレワークだと周囲の人の状況が見えない

FAMofficeを導入することになったきっかけを教えてください。

渡邊:最近「インターネット支店」という仮想的な支店に口座を開設できる銀行が増えています。こういったものを一般の会社でも実現できないかと、1年ほど前から考えていました。インターネット支店を会社で作るならどういった機能が必要か、社内でいろいろ議論すると同時に、世の中にある仮想オフィスのツールを探し始めました。何社かのツールを比較して社内で検討し、FAMofficeを選びました。シンプルな操作性が実現されていて、マニュアルを見なくても感覚的にわかるところが決め手です。

「インターネット支店」のようなアイデアが出る背景には課題があったのでしょうか？

渡邊:「人材の募集」ですね。現在は東京と静岡に事業所があるのですが、人材を募集しようとする、どうしても静岡に通える人や東京に通える人に偏ってしまいます。そこで、テレワークを前提として「Cloud事業所」を開設することで、全国に募集をかけて採用しようと考えました。実際、求人募集を出すときに、勤務地として「東京事業所」、「静岡事業所」、「Cloud事業所」を選択肢として用意しています。そして、「Cloud事業所」を選んだ方は、基本的に在宅で、出社する必要はありません。

「Cloud事業所」を開設してからの反応はいかがですか？

吉永:「Cloud事業所」に興味を持って応募してきた方が多くいらっしゃり、現実的にはCloud事業所を希望される方が多いです。世の中にあまりアピールをしていなくても、多くの人が集まってきている状況です。

導入後

- ✓ 「Cloud事業所」を作り、全国から人材を募集
- ✓ 誰がどこにいて、誰と話をしているのかが見える
- ✓ 会議室でプロジェクトのミーティングを行い、進捗状況を管理しやすい

利用者の方の反応はいかがですか？

渡邊:試験的に1ヶ月導入してみて、社内でお試したのですが、なくなって元に戻ると困るという声がありました。当社で導入時に考えていた、「隣の席にいて、誰と話をしているのかが見える」ということを実現できていると感じています。

中俣:在宅では、周囲の人が何をやっているのか、どういう状況に置かれているのかが見えていませんでした。今回、FAMofficeを導入したことで、誰がどこにいて、誰と話をしているのかが見える化できたのが一番良かったと感じています。これまで話してこなかった人とも話やすく、どういう人が集まってミーティングをしているのかが見えるのが実感としてわかりやすいです。

FAMofficeを入れて、気に入っている機能や使ってみて便利だと思う機能はありますか？

吉永:私は営業なので、基本的に電話でやり取りするのですが、電話では、LINEグループのように、事前にグループを構築しないと複数の人で話すことができないという手間がありました。それがFAMofficeでは「会議室に集まって」という一言で全員が集まれるので助かっています。プロジェクトのミーティングにも参加しやすくなり、進捗状況の管理がしやすくなりました。会長と社長は普段、テレワークを続けており、なかなか顔を見る機会がありませんでした。Zoomなどで打ち合わせをしようとする、時間を決めてセッティングをする必要がありましたが、FAMofficeなら直接声をかけて話せるのがすごく良くなりました。会議中に顔が表示されて、お元気そうな雰囲気や伝わるのは社員にとって良いと感じています。

株式会社LIG 様



会社名
株式会社LIG

所在地
東京都台東区小島2-20-11

URL
<https://liginc.co.jp/>



(左から) 管理本部長 高橋様
経営企画室 東様

誕生日のメンバーを「つぶやき」でお祝い！FAMofficeでコミュニケーション活性化

導入前

テレワークにおけるコミュニケーション不足

導入後

- ✓会議室を使った朝礼、終礼を実施
- ✓つぶやき機能によるコミュニケーションが発生

FAMofficeを導入したきっかけについて教えてください。

高橋:新型コロナウイルス感染症の予防対策としてフルリモートワークを導入したのですが、社員間のコミュニケーション不足やテレワークにおける若手や中途社員の教育といった課題が出てきました。弊社は全国に拠点があり、なかなか集まることも難しいので、バーチャル上で出社できる仮想オフィスを検討し始めました。

東:仮想オフィスはそんなに使い勝手が良くないのではと正直思っていたのですが、色々なバーチャルオフィスツールを試してみたら、そんなことはなかったです。その中で弊社に一番合っていると感じたFAMofficeに決めました。

FAMofficeを導入する前後でコミュニケーションに変化はありましたか？

高橋:利用データを抽出して確認したのですが、**コミュニケーション量が増えています**。特に、上長が静岡でフルリモートしている部署があるのですが、その部署は利用率が高かったです。

FAMofficeを入れて、気に入っている機能や、使ってみて便利だと思う機能はありますか？

高橋:つぶやき機能をよく使っています。誕生日の人がいれば、みんなでお祝いメッセージを送ったりしていますね。**新卒や中途入社の人ともつぶやきでコミュニケーションを取っています**。よくつぶやく人がいて、その人が中心となって活用されている感じですね。

東:ビデオ会議が便利です。管理部門では朝会と夕会を行っているのですが、会議室に入ってWEB連携機能でGoogle Meetを立ち上げています。

FAMofficeに今後期待したいことや改善点はありますか？

高橋:エリアごとの入室制限機能ですね。例えば、人事部など機密性の高い情報を扱うことが多い部署やグループの会議に、他の社員が間違っに入ってしまわないように、同じフロア内でも入れる場所、入れない場所を設定したいです。

東:私が管理者権限を持っているのですが、フロアレイアウトの編集機能がもっと使いやすくなったらいいなと思います。下書きができたりすると嬉しいです。

今後の展望について教えてください。

東:現在は管理部門で利用していますが、1月に全社展開する予定になっています。管理部門のメンバーはFAMoffice導入後の利用定着に特に問題がありませんでした。全社の人たちにも問題なく使ってもらえるよう、これから社内説明会や資料の展開など準備をしていきたいと思っています。

高橋:弊社は海外拠点もあるので、ゆくゆくは海外展開も行いたいですね。

株式会社三香堂 様



会社名
株式会社三香堂

所在地
大阪市中央区上町1-21-11

URL
<https://www.opal-co.co.jp/index.html>



(左から) 是枝様 川島様 鈴木様

FAMofficeで全国の営業拠点のメンバーと一緒に働く！

導入前

テレワークにおけるコミュニケーション不足

導入後

- ✓社員間の雑談が増加
- ✓みんなで働いている一体感を感じられる

FAMofficeを導入したきっかけについて教えてください。

川島:弊社は以前、全国に営業拠点があったのですが、新型コロナウイルスの影響で拠点を撤退し、テレワークを導入したことで、顔を合わせて話す機会が極端に減ってしまいました。そこで、テレワークでもコミュニケーションをスムーズにとれるようバーチャルオフィスの導入を検討しました。いくつかのバーチャルオフィスツールを使ってみて、FAMofficeに決めました。

仮想オフィスツールは他にもいくつかありますが、FAMofficeを選ばれた理由はなんですか？

川島:他のバーチャルオフィスだと、オフィス感があまりなく、みんなで働いているという感じがありませんでした。FAMofficeは、**オフィスとしての再現性が高く、操作も簡単で幅広い年代の社員が使いそう**というところが決め手になりました。**出退勤の管理ができる**点も良かったです。

こういった使い方をされていますか？

川島:毎朝、FAMofficeの会議室でミーティングを実施しています。アバターを重ねて行うビデオ通話は3人でもできるので、ビデオ通話もよく使っています。業務に関わる会話がメインですが、**顔を見ながら話せるので雑談も増えました**ね。社内の声としても、すぐにビデオ通話がつながり、会話できるようになったと好評です。アバターをくっつけるだけで会話が始まるという行為自体が楽しいみたいで、みんな上手に活用してくれています。

鈴木:上司にちょっと相談したいけど、アバターを重ねにくい場合や、上司が別の人と話しているので近くで待機しておきたい、といった意見があったので、「waiting room」という席を設けました。ここに座っていたら、上司の都合がよくなったタイミングで話しかけてもらえるのでとても便利です。

利用定着に向けて工夫されたことはありますか？

高橋:まずは、社内説明会を実施することで、導入するメリットや操作方法を理解してもらいました。利用定着を促すために、出退勤のログをFAMofficeで管理することをルール化し、ログインしてもらうようお願いしましたね。

FAMofficeに今後期待したいことや改善点はありますか？

川島:ビデオ通話やビデオ会議の際、もうちょっと大きく顔が表示されるようにしてほしいです。そのほうが相手の表情が読み取りやすく、会話がしやすいかなと思います。

是枝:服や髪の色だけでなく、アバターをもっとカスタマイズして、個性が出せたらいいなと思います。みんな楽しく使っているので、そういった面白さが増えると嬉しいです。

鈴木:アバターに男性・女性わかるような表示があるといいと思います。あとは、アラート機能ですね。何時から会議が始まる、というときに通知があると会話を切り上げやすいです。

FAMofficeを導入してこういった効果がありましたか？

川島:今、社員のほとんどがテレワークをしており、対面で会ったことのない社員もたくさんいます。そんな中、FAMofficeを導入したことで**同僚のことが分かりやすくなり、コミュニケーションが増えた**と感じています。さらに、事務所がない地域で働いているスタッフもいるので、**バーチャルオフィスがあることで、出社してみんなで一緒に働いているという感覚が芽生えた**のではないかと思います。

株式会社スカイシステム 様



会社名
株式会社スカイシステム

所在地
名古屋市中村区名駅3丁目3番2号 志摩ビル2A

URL
<http://www.skysystem.co.jp/index.html>



(左から) 高橋様
加藤様

「おはよう」や「お疲れさまでした」、出社していた時のような
コミュニケーションを FAMoffice を使って実現！

導入前

テレワークだと周囲の人の状況が見えない

導入後

- ✓ 全体連絡機能による挨拶の実施
- ✓ つぶやき機能によるコミュニケーションが発生

FAMofficeを導入したきっかけについて教えてください。

加藤:まず、社長から仮想オフィスツールを使ってみたいという話が出たことが始まりです。それを受けて私がwebでこういったサービスがあるのかを検索しました。特徴や機能を比べて、気になったいくつかの仮想オフィスを実際に試してみた結果、最終的にFAMofficeを選びました。

FAMofficeを選ばれた理由はなんですか？

加藤:色々理由はありますが、決め手は操作性ですね。見た目がシンプルで分かりやすいですし、マニュアルを見たりすることなく、簡単に使えるというところが良かったです。あとは、アバターの種類を変更することができたり、zoomなどの外部ビデオ通話システムとの連携ができる点でしょうか。コスト面でも私達が考えている予算に合っていました。

高橋:ステータスやつぶやき機能で周りの業務状況が分かるところも良いですね。また、管理者視点だとCSVで利用データを抽出できる機能も便利だと感じました。

こういった使い方をされていますか？

加藤:全体連絡機能を使うと、FAMofficeにサインインしているユーザーに一斉通知ができると思うのですが、その機能を使って、出退勤時には「おはよう」や「もう上がります」「お疲れさまでした」といった挨拶を交わしています。
あとは、朝礼用の会議室を設けているので、朝は自然と社員が集まってFAMoffice上で朝会を実施できていますね。

FAMofficeを導入してどういった効果がありましたか？

加藤:FAMofficeを導入する前は、誰が何をしているのかチャットで連絡する必要があったのですが、それが要らなくなりました。全体を俯瞰して全員の動きが見やすいような座席配置にしており、会議中なのか、席を外しているのか、それとも外出をしているのか、ステータスで状況が分かります。さらにつぶやきを活用して、「早退します」といった勤怠連絡も簡単に伝えあえるようになりました。

FAMofficeに今後期待したいことや改善点はありますか？

加藤:メモを送るのが1対1でしかできないのですが、他のチャットツールのようにグループで送りあえるようにしてほしいです。あとは、会議に参加し忘れてる人を呼び出す機能とかがあると便利だと思います。

高橋:現在のステータスだと、離席中=休憩ということになると思うのですが、自分たちでオリジナルのステータスが設定できると嬉しいですね。